

8月臨時教育委員会会議録

開催年月日	令和6年8月2日（金）
開催時間	午前10時30分
開催場所	八尾市教育センター 大研修室1
出席委員	浦上 教育長 村本 教育長職務代理者 水野 委員 岩井 委員 藤井 委員
出席職員	太田副教育長・塚本教育監・黒井学校教育推進課長・辻本教育センター 所長・山本学校教育推進課長補佐・村上学校教育推進課指導主事

【浦上教育長】 おはようございます。ただ今から8月臨時教育委員会を開催いたします。長時間になりますが、よろしく願いいたします。お座りください。

まず、本日の会議録署名委員に岩井委員を指名したいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

また、本日は、教科書採択に関わる案件が3件上程されております。順次審議してまいりたいと思っております。

なお、採択に関する教育委員会については、公開で行うことを既に4月の定例教育委員会で確認しておりますので、申し添えておきます。

それでは議事に入らせていただきます。

議案第26号「令和7年度使用 八尾市立中学校教科用図書の採択に関する件」について審議いたします。提案理由を黒井学校教育推進課長より説明願います。

【黒井学校教育推進課長】 それでは、議案第26号「令和7年度使用八尾市立中学校教科用図書の採択に関する件」について、ご説明いたします。

本件については、教育長に対する事務委任等に関する規則第2条第9号の規定により、次のとおり委員会の議決を求めるものです。

提案の理由といたしましては、令和7年度使用八尾市立中学校教科用図書を採択するにつき、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第13条に基づき、本案を提出する次第です。

以上、甚だ簡単な説明ではありますが、よろしくご審議賜りますようお願い申し上げます。

【浦上教育長】 今年度は、令和7年度に使用する中学校の教科書を採択する年であります。八尾市の子どもたちの、主たる教材としての教科書でございますので、教育委員会として、その権限と責任において、採択してまいりたいと考えておりますが、選定委員会からの答申に至るまでの経過について確認したいと思っておりますので、説明の方、お願いいたします。

【黒井学校教育推進課長】 令和6年4月22日に、令和7年度より使用されます中学校用教科用図書の採択にあたりまして、八尾市教育委員会より選定委員会に諮問をさせていただきました。

それを受け、第1回選定委員会を令和6年5月16日に開催し、選定委員会運営要領により調査員の任命委嘱などについて、決しました。

また、令和6年7月11日、12日に開催しました第2回、第3回選定委員会において、調査員などの報告書をもとに慎重に審議を重ね、各教科の答申を作成し、令和6年7月25日に教育委員会へ答申を手交した次第です。

【浦上教育長】 ただいま、説明がございました。昨年度は、選定委員会からの答申をもとに、大阪府教育委員会からの教科用図書選定資料並びに市民からの声も参考としながら、審議し、採択しております。

今回についても、各委員におかれましては、すでに各教科書を読んでいただくとともに、それぞれの資料についてもご確認いただいているかと思いますが、答申をもとに審議を進め採択をするということでご異議ございませんでしょうか。

【各委員】 異議なし

【浦上教育長】 全委員ご異議がないようですので、そのように審議を進めてまいりたいと思います。

それでは、これから10教科16種目の教科書の検討を進めていくわけですが、教科・種目の検討を進める順序については、答申の順序で進めていければと考えていますが、それでよろしいでしょうか。

【各委員】 異議なし

【浦上教育長】 もう一点、今回採択する多くの教科書には二次元コードが付いております。この取扱いについて確認しておきたいと思いますので、事務局からその説明をお願いいたします。

【黒井学校教育推進課長】 デジタル教科書・二次元コード等の扱いについてですが、文部科学省通知「令和7年度使用教科書の採択事務処理について」において、「採択に当たっての留意事項として、「教科書採択は紙の教科書を決定する行為であり、調査・検討の対象は紙の教科書であることが基本であること。

一方で、「令和6年度以降、英語の学習者用デジタル教科書を紙の教科書と併せて提供する予定であり、令和6年度の中学校英語の教科書採択については、中学校英語のデジタル教科書を調査し、考慮の一事項とすることができること」とされています。従いまして、英語につきましては、デジタル教科書の内容等も検討内容に含め、他の教科については、各教科書の紙面を基本とし、二次元コードの内容等については補助的な扱いとします。

二次元コードはタブレット端末等で読み取りますと、各教科書会社のサイトやコンテンツにアクセスできるようになっており、1人一台端末を使った授業の中での活用の他、自宅での学習等において、補充的・発展的な学習に活用することができるものとなっております。

【浦上教育長】 デジタル教科書及び二次元コードについて事務局から説明がありました。それでみなさんよろしいでしょうか。

【各委員】 異議なし

【浦上教育長】 それではこのあと、答申をもとに審議を進めて参りたいと思いますが、八尾市教育センターと八尾図書館の2箇所教科書展示を行ったと聞いております。どのような市民の意見が寄せられたのか、お聞きしたいと思いますので、よろしくお願ひします。

【辻本教育センター所長】 本年度の教科書展示会の状況について報告させていただきます。本年度は、令和7年度使用教科書の展示会を行っております。法定外展示会として、5月31日（金）から6月13日（木）までの10日間、教育センターにおいて開催しました。また、法定展示会として、6月14日（金）から7月3日（水）までの14日間を教育センターで開催しました。また、八尾図書館においても休館日を除き、土日を含めて6月12日（水）から7月2日（火）までの期間、開催しました。

教育センターでの閲覧者数は、法定外展示会では2名、法定展示会では15名、合わせて17名の閲覧者数でした。八尾図書館での閲覧者数は、48名でした。閲覧に来られた理由としては、「教科書の内容について知りたい」「複数の教科書を比較したかった」が多くみられましたが、「日本の歴史をどう伝えているかを知りたかった」、「変化する、日本・世界の動きに対応しているかを知りたかった」といったものもみられました。また、教科書を閲覧して「単元が高校の教科分類に近くなり、つながりが見える」、「昔に比べて写真や資料が増えて分かりやすくなっている」、「出版社によって内容が異なっている」、「QRコードがついているが、子どもたちがどこまで利用できるのか」など様々なご意見をいただいております。

以上、本年度の教科書展示会の状況についての報告とさせていただきます。

【浦上教育長】 ありがとうございます。2箇所に設置いただき、合わせて65名の市民の方々にご覧いただくことができたということですね。あと、それ以外に諸団体から3件ほどですが、要望書をいただいております。教育委員の皆さんにも目を通していただいておりますので、この場をお借りしてお伝えしておきます。

これより、10教科16種目の教科書について審議をしていきたいと思ひます。各委員、読んでこられた教科書や答申を踏まえ、活発なご意見をお願ひしたいと思ひます。それでは、早速ですが、「国語」について審議をいたします。選定委員会ではどのような観点でまとめられていましたか。事務局の方からですね、説明をお願ひしたいと思ひます。

【黒井学校教育推進課長】 選定委員会の国語の検討のまとめとしては、基礎的基本的な言葉に関する理解を深めるとともに、我が国の言語文化にも触れながら言語感覚を豊かにできるということ、主体的・対話的で深い学びにつながる学習活動の工夫があること、補充的・発展的な学習により、学びを深められるということ、情報を活用し、論理的に表現する力を育成できるということ、こういった点での議論をもとに、選定委員会として本市の生徒の実態に適している教科書として各発行者の特色をまとめ、答申に挙げられております。

学習指導要領では、「言語活動の創意工夫」、「情報の扱い方に関する指導の改善・充実」、「言語文化に関する指導の改善・充実」、「学習過程の明確化と考えの形成の重視」といったことがポイントとなっております。以上でございます。

【浦上教育長】 ただいま事務局から説明がございましたが、そのことも踏まえて、委員の皆さま方から、何かご意見を頂戴したいと思いますが、皆さん、いかがでしょうか。

【岩井委員】 「基礎的・基本的な言葉の理解」という点では、たくさんの言葉に出会い、語彙を増やすことが私は大切だと思います。語彙指導に関しては光村と東書の教科書が充実しているという風に思いました。

光村には各学年に「語彙ブック」という薄い冊子がついています。二次元コードからは小学校で活用していた言葉の宝箱を閲覧することもできます。生徒たちが様々な言葉に出合ったり、自分の考えを表現したりするのにぴったりの言葉を探すことのできるツールとしてよいと思いましたが、語彙指導を重視していることが伺えました。

また、東書は、各読み物教材のてびきの中に「広がる言葉」として、教材の中で出てくる言葉に関連する言葉が示してあります。紙面としては小さなスペースになってはいますが、二次元コードから「行為をあらわす言葉」、「印象を表す言葉」など様々なカテゴリーに整理された多くの言葉について、意味と用例が示されています。

また、語彙の獲得や言葉の理解については、読書指導も非常に大切だと考えます。その点では、どの教科書でも様々な本が紹介されていました。大阪府教育委員会作成の教科用図書選定資料の 20 ページを見ていただきたいと思います。一番上に紹介図書を取り扱っている冊数が記載されていますが、紹介図書数は、光村が 332 と最も多く、次に多いのが東書の 306 となっています。この 2 社は、各教材に関連する本の紹介とは別に、読書や図書館活用に関する複数の教材をつなげた単元を設けており、読書指導についても充実しているという風に感じました。目次を見比べていただくとよくわかりますが、東書は年間 2 回「読書」というまとまりの学習があります。光村も同じく 2 回「いつも本はそばに」という学習があり、充実した読書指導ができそうだと思います。

三省堂には、「小さなデジタル図書館」というデジタルコンテンツがあって、端末上で短い小説や随筆、詩、短歌、俳句、古文、漢文などを読むことができるよう工夫されました。読書の好きな生徒にはうれしいコンテンツだと思います。

さらに、言語文化に関する指導という観点で、1 年生の古典の単元を各社、見比べてみたのですが、どの教科書でもメインの教材としては「竹取物語」を取り扱っていました。

なじみのない「古典」に生徒が興味をもてるよう、各社とも様々に工夫されていると思いました。古典の導入として、教出では桃太郎を、東書では浦島太郎とイソップ物語を翻訳した伊曾保物語を扱っていて、生徒たちになじみのあるお話によって古文に親しみやすくする工夫がされていると感じました。

光村では、場面ごとに竹取物語の絵巻物が掲載されており、絵巻物を見ながら物語を楽しめるようになっていました。また、はじめに「主な登場人物」として、登場人物の関係が図解で示されており、生徒たちの理解を助け、興味を持たせる工夫がされていると思いました。さらに、「貴公子たちの失敗談」について掲載したページがあるのですが、そこでは、エピソードの内容だけでなく、物語で使用される言葉に着目した言葉遊びについての記載があるのがとてもよいなと思いました。以上です。

【浦上教育長】 ありがとうございます。他にご意見がありましたらお願いします。

【村本教育長職務代理者】 別の視点でよろしいでしょうか。主体的・対話的で深い学びという視点では、どの教科書でも、様々な言語活動ができるよう学習活動が工夫されており、自ら学びを深められるように学びのヒントとなるページ等も工夫されていると感じました。また、友達と話し合ったり考えを交流したりして対話する場面も多く設定されており、しっかりとこの点について考えていただいていると思いました。

また、教出では、各教材の本文の前に「学びナビ」というページがあり、単元の目標や教材を読むときの観点等が示されていました。生徒が見通しをもって学習に臨むことができるという点でよいのではないかと思います。また、生徒たちが主体的に読み取ったり考えたりできるようにするための支援として、考え方や読み方のポイントを図解等で示したものや思考ツールの紹介などがどの教科書にも掲載されていました。三省堂では、各学年の教科書の第1章のまえに、「思考の方法」というページが設けられており、図解で確認できる思考の方法の一覧が掲載されています。折り込みページになっており、参考にしたいときにすぐに確認できてよいと思いました。考えてみようと言われてもどう考えればよいかわからないという子どもたちもいますので、考え方と考えを整理するための思考ツールが示してあるこのページは考える際の参考になるのではないかと思います。その点では、光村も、始めの方のページに折り込み式の「思考の地図」というページがあります。三省堂よりも少し簡単なものになりますが、ページを見つけやすいように工夫しており、考え方のヒントになるページになっていると思いました。

また、三省堂には教材と関連付けて「読み方を学ぼう」というページが各学年に複数あり、文章を読み解くためのポイントを3年間で系統的に学習できるようになっていました。図解で非常にわかりやすく作られていると思いました。特に、各学年の最初の説明文教材の前に、短い説明文を具体例として読み方を解説したページがあり、生徒にとって理解しやすいように配慮されていると感じました。以上です。

【浦上教育長】 ありがとうございます。他にご意見がありましたらお願いします。

【水野委員】 どの教科書も、補充的な学習とか発展的な学習ができるように、資料やデ

デジタルコンテンツが非常に充実しているという風にじましました。前回の教科書採択、令和2年度でしたけれども、その時には、ここまでGIGAスクールが進むことが想定されていない段階で教科書が作成されたということになります。今回の教科書については、昨年度の小学校教科書採択と同様に、一人一台端末が導入されたということがありますので、特にデジタルコンテンツが学習に効果的で、すぐに活用できるように考えられているという印象を持ちました。

例えば、話すという単元はすごく重要ですが、話し合い活動やスピーチやプレゼンテーションという表現をする活動があります。対話的な深い学びの対話の部分だと思のですが、東書、光村、三省堂では、実際の表現活動の具体例を二次元コードから動画で視聴できるようになっています。発表のための原稿の例など、もちろん教科書の紙面に示されていますが、動画では、それだけではわからない、話し方や身振り手振りなど、そういうものも確認できますから、生徒にとって具体のイメージをつかむための手掛かり、モデリングということになると思います。その中でも、三省堂は、改善前と改善後の比較ができる動画が用意されており、より効果的に話すポイント等がわかりやすいように工夫されているという風に感じました。

また、光村では、動画や音声を視聴した内容について、要点を伝えたり整理したりする「聞くこと」に特化した教材が扱われていました。二次元コードがあるから成り立つ教材であり、新しい教材の形としては非常におもしろいと思いました。生徒一人ひとりが自分のペースで視聴できるので、それぞれ聞き直したり、ポイントを学習した後に確認したりすることができます。これまでは、こういった聞いて考える教材というのは、先生だけが音源をもって、何か一緒に、カセットテープ、レコード、古いですね、そういうもので聞くみたいなことしかできなかったのですが、これなら、学校にちょっと来ることが難しい子どもさんや、教室にちょっと入りにくい子どもさんも、自宅とか学校の別室、会議室みたいなところで取り組むことができ非常に良いと思いました。

また、各社とも二次元コードから練習問題や発展問題に取り組めるようなコンテンツが用意されていました。東書の「文法ゲーム」や三省堂の「デジタル漢字ドリル」「デジタル文法ドリル」などは、クイズ形式で問題を解くことができるので、生徒が何かインターネットのコンテンツを見ているような気持ちになりながら取り組めるのではないかと思います。

その中で、光村には、CBT形式、コンピュータベースドテストの形式で取り組める「国語の力試し」というデジタルコンテンツがありました。先般、報道等もされていますが、令和7年度以降にはですね、全国学力・学習状況調査でコンピュータ等を利用した調査であるCBTの導入が予定されています。1年間で身に付けた力を試す問題にもなり、CBT形式に慣れるための経験にもなるので、とても良いと思いました。生徒が自己採点できるようにもなっており、自らの成果や課題を把握できるようになっているという点も、非常に問題解決的な学習を促進するという風に思いました。

その他、デジタルコンテンツ以外の、紙媒体の資料についてですが、各社ともに巻末に生徒たちの国語の学習に役立つ資料を掲載していました。三省堂は、資料編のページがすごく多くて、「読書の広場」とか「社会生活に生かす」とか「参考資料」に分かれています。「社会生活に生かす」というページでは、内容を一目見て分かりやすいということ、

見やすいという点ではとても充実しており、活用しやすそうだと考えました。

光村は、各教材のページに掲載された「学びのカギ」という一覧が掲載されています。見ていただくと分かると思いますが、文学的な文章の読み取りに活用できるもの、説明的な文章の読み取りに活用できるもの、表現を豊かにするために活用するものに非常に見やすく整理されており、参考資料としては非常によいと感じました。光村の2・3年生の教科書の資料編ですが、例えば2年生は287ページ、3年生は265ページになりますが、そこにグラフの見方のポイントを示したページがありました。資料と文章を関連付けて読み取ることについては本市の学力課題でもあります。授業の中で資料を読み取って考える活動や、グラフ等の資料を使って他者に伝える学習ってというのは、こういった資料が掲載されているのは非常によいと思いました。横串の活動とか他教科にも発展しようと思いました。

先ほど岩井委員が触れていた光村の「語彙ブック」についてですが、感情語彙についても学習できるようになっており、道徳や英語などの教科横断的な学びにもまた今後繋がると思います。同様に、教育出版はですね、「理解に役立つ言葉」、三省堂は「学習用語辞典」も掲載され、東書はウェビングという考えで、大学でもやっていますが、各社とも心情・行為を表す言葉について取り扱っています。以上です。

【浦上教育長】 ありがとうございます。他にご意見がありましたらお願いします。

【藤井委員】 先程、水野委員からもありましたが、文章や資料から情報を関連付けて読み取って論理的に表現することについては、以前から八尾市における小中共通の学力課題としてあげられていたかと思います。この課題を解決していくためには、複数の資料を読んで考えたり、文章と資料を結び付けて読み取ったり、そういった学習や、あとは情報を活用して自分の考えを表現する学習活動を積み重ねていくことが必要だろうと考えます。

その点では、各社とも情報の扱い方についてていねいに取り扱っていて、実際に情報を整理したり活用したりして表現活動につなげられるよう工夫されているとう風に感じました。また、各社とも説明的な文章において、図やグラフ、資料等と関連付けて読む教材が多く用意されており、生徒が3年間を通して着実に力を身に付けられるように考えられているのと思いました。

その中で、教出には、各学年に「学びのチャレンジ」というページがあり、初見の文章や資料を読んで考える問題が掲載されていました。少し難しい内容のようにも思いましたが、力を試す問題としてはよいのではないかと思います。

また、東書には、各学年の学年末の時期に「未来への扉」という単元があり、1年間の学びを活かして、複数の文章や資料を読んで、考えを書いたり話したりして表現する教材が設けられていました。身に付けた力を試すとともに、八尾市で課題となっている力を身に付けるための学習活動としてよいと感じました。三省堂でも、各学年の第6章に、複数の文章や資料を関連付けて表現する、「情報の扱い方」をテーマにした単元が用意されていました。

光村では情報活用能力を養う教材として、各学年に「情報×SDGs」ということで、1年生は78ページ、2年生は76ページ、3年生は78ページ、それぞれに「情報×SDGs」と

いう教材がありました。また、文章における「情報の扱い方」を、「思考のレッスン」と「情報整理のレッスン」のページで図解や具体例を使って示されていて、生徒が理解しやすいよう工夫されていると感じました。

それから、表現する力を身に付けるという視点で、まず「書くこと」の単元について各社を見比べてみました。各社とも、3年生に批評文を書く単元があります。それぞれ前の読み物教材での学びを活かすような流れで配置されていました。東書と光村と教出は、前の教材で複数の文章を読んで、筆者の論理や主張を吟味したり批判的に読んだりすることを学習課題として設定していて、批評文を書くという学習活動にうまくつながるように考えられていると思いました。批評文を書く学習については、東書が特に一つひとつの手順について丁寧に解説されていて、分かりやすいと思いました。

「話す」単元については、2年生の学習に、各社ともプレゼンテーションをする単元があり、それを見比べてみました。そうすると、光村と三省堂は、誰に何を何のために伝えるのか、相手意識と目的意識を持たせている点や提示する資料の良い例・悪い例を示している点、あとはプレゼンテーションの構成例を具体的に示している点が特によいと感じました。また、先ほどの水野委員のお話の中にもありましたが、東書・光村・三省堂については、二次元コードから実際の活動の動画が視聴できるので、非常に分かりやすいと思いました。以上です。

【浦上教育長】 ありがとうございます。今、4人の委員さんからご意見をおっしゃっていただきましたけれども、私の方からも意見を申し上げます。国語を学習するうえで一番大事なものは語彙力、それから読書の指導、読むこと、それからコミュニケーション能力かなと思っています。そんな中で、やはりさっき岩井委員がおっしゃっていた、語彙指導、それから読書指導の部分ですね、語彙ブックがありましたけれども、その辺りで何か感じておられる方はいらっしゃいませんか。

【岩井委員】 私、先程も申しましたが、語彙の獲得、語彙の理解、言葉の感覚を磨くということから見ると、やはり光村さんが最も丁寧だと思っています。読書の紹介のところで思ったことですが、読書のところで、こんな本がいいよというのを各社とも紹介されています。その紹介の仕方が、光村さんは本当にこれ読みたいなというような紹介をされています。私もこの本を見させていただいたときに、載っている本をすぐ図書館で借りて、3冊ほど読みました。やはり如何に引き付けるかというその辺りが、私は光村さんを読んで、一番なじみやすかったというか、選んで読んでみようと思いました。やはりその辺り、子どもたちに如何に興味を持たせるかという紹介の仕方がよかったのではないかと感じるところです。

【浦上教育長】 ありがとうございます。私もそのように感じます。もう一つは、本市の子どもたちの学力実態、情報を見てそれを活用して、そしてどのようにして自分の言葉で自分の考え方をまとめて発表するか、表現するか。その中でやはり、大人でもそうですけど、ものすごく難しいけれども、特に語彙を使いながら、自分の言葉で自分の頭で考えて発表する。その部分が高まってほしいと私も感じています。だからそう意味におい

ても、光村さんの部分が非常に良いのかなという感じはしました。他にご意見いかがでしょうか。

【藤井委員】 私も光村が、各学年に情報とSDGsというところで、非常に今のテレビ等で見てもよく出てくることに合わせて、そういった情報活用能力を養う教材ということで出されていました。親しみやすいと思いましたが、子どもたちにも理解してもらいやすいかと感じております。

【浦上教育長】 ありがとうございます。他にご意見いかがでしょうか。

【水野委員】 先ほどの光村さんの語彙ブックのところの1年生の272ページで、思考するときの言葉ってということで、問いを立てて広げる、分析して深める、考えて表現する、振り返って共有する。これは多分、高校の探究学習につながると思うのです。ですから、もう中学校から高校への接続ということを考えて、要約の仕方とかにしても、より光村の方が探究を意識しているということで、私は八尾の子どもたちに力を貸していただきたいと思っております。

【浦上教育長】 ありがとうございます。他にご意見ございませんでしょうか。それでは、審議も整理ができましたので、採決に移らせていただきたいと思います。

「国語」について、答申や本日のご意見や審議をまとめさせていただきますと、やはり基礎的基本的な言葉に関する理解を深められるよう、語彙指導や読書指導が充実している点、また、主体的・対話的で深い学びにつながるよう学習活動や教材が工夫されている点とか、補充的・発展的な学習により学びを深められるようなデジタルコンテンツや資料が充実している点など、最後は、先ほども申し上げました情報を活用して、論理的に表現する力を育成できるよう教材等が工夫されている点、そういった観点から考えていきたいと思えますし、答申の中身、そして本市の子どもたちの生活状況とか、あるいは学力状況も含めて総合的に勘案し、光村の「国語」が本市にとって最も適した教科書であると思いますが、この教科書を採択することにご異議ございませんか。

【全委員】 異議なし

【浦上教育長】 全委員ご異議なしと認めます。「国語」の教科用図書につきましては、光村図書出版株式会社の「国語」を採択することが適当と決しました。

【浦上教育長】 それでは、「書写」について審議をいたします。書写の教科書を机の上に置いてありますので、自由にご覧ください。それでは選定委員会ではどのような観点でまとめられていたのか、事務局より説明願います。

【黒井学校教育推進課長】 選定委員会の書写の検討のまとめとしては、硬筆指導について理解しやすく工夫されていること、行書への意識付けがしやすいように工夫されている

こと、日常生活の中での文字表現について、特に教材や学習活動が工夫されていること、こういった点での議論をもとに、選定委員会として本市の生徒の実態に適している教科書として各発行者の特色をまとめ、答申に挙げております。

学習指導要領では「効果的に文字を書くこと」や「書写に関する事項について工夫がなされているか」、書写の学習を通して学んだ文字の書き方や文字についての知識を日常生活に生かし、効果的に使えるようになることがポイントとなっております。

また、書写については、各学年に適切な内容が盛り込まれているか、毛筆や硬筆の内容が適切に盛り込まれているか等がポイントとなっております。

【浦上教育長】 ただいま事務局から説明がありましたが、そのことも踏まえながら、委員の皆様方、何かご意見はございませんでしょうか。

【水野委員】 各社とも、学年に応じて適切な指導内容が取り上げられていると感じます。それぞれ書き方のポイントを学び、それを踏まえて毛筆で学習し、そのあと学んだことを活かして硬筆で書くという流れになっていて、毛筆での学びが硬筆の基礎になるよう考えられて作られているのだなと思いました。府の選定資料の書写の9ページを少し見ていただければと思います。9ページの方を見てみると、硬筆指導については光村で特に多く扱われています。国語科との関連も多く、例えば教育出版の30ページには、古典教材の「竹取物語」を書き写すというのが載っていました。それから三省堂では、50ページから52ページのように、硬筆での記入箇所を多く用意しています。光村では、硬筆の部分が「書写ブック」として教科書から切り離して活用できるようになっています。毛筆のページに硬筆の部分がほとんどないせいか、余白がゆったりとしていて主要な部分が際立っており、また、書写ブックでは、書く活動が豊富に用意されています。ページ数が多いことに加え、137ページでは他社には無いアルファベットや数字まで、幅広く取り扱っていて、充実しているなと思いました。

また、光村の巻末にある「書き初めマスターブック」では、書初めの準備や配列などの手順について、詳細に解説が加えられています。保護者もこれを見ながら書き初めができると思いました。

【浦上教育長】 ありがとうございます。他にご意見いかがでしょうか。

【村本教育長職務代理者】 書写に関する事項について理解するという点で、中学校で学習の中心となる行書に注目しますと、各社ともはじめは、楷書と行書を見比べて、行書の特徴を考えたり見つけたりする学習があります。光村の52ページでは、「行書スイッチを押そう」と問いかけ、これまでの楷書との違いをより意識付けできるよう工夫されています。55ページでは行書での筆の動きを「びよん・びた」と表現しているということも分かりやすい工夫です。

毛筆で書く初めての行書の教材にも、各社の特徴が見られます。光村は「大木」、教出は「大洋」、三省堂は「名月」、東書は「日光」となっています。それぞれ行書の特徴を感じやすい文字ですが、画数等から考えると光村の「大木」が最も優しい導入だと思いま

す。

また、行書とかなの調和について各社を比較しますと、光村は「豊かな森」、三省堂は「豊かな実り」東書は「豊かな自然」と平仮名は「かな」の2文字を掲載しているのに対し、教出は「広がる夢」と「がる」を掲載しています。72ページを見ても、平仮名の行書の感じがあまり出ておらず、行書との調和の感じが弱い印象を受けました。

【浦上教育長】 ありがとうございます。他にご意見いかがでしょうか。

【岩井委員】 理解をより深めるという点では、二次元コードも書写では重要だと思いません。各社とも二次元コードから毛筆の動画を視聴することができます。三省堂の動画は、半紙を中心に硯も映像に映っていて、硯上での筆の扱いなど細かな点も確認できるようになっています。大阪府の選定資料、書写のページを見てください。一番下の二次元コードの取扱い数を見ますと、光村は二次元コードの掲載が多く、コードに「動画」や「他の文字にもチャレンジ」等の添え書きがあります。数の多さに加え、知りたい情報にアクセスしやすい工夫がなされていると思います。

また、理解を深めるための話し合い活動という点では、教出は対話的な学習を進めるために14ページにありますように、話し合いのメモの記入欄を設けています。また、42ページには行書体の毛筆の初期指導として、筆の動かし方を取り立てて分かりやすく説明していることも、理解を深める工夫として挙げられると思います。

【浦上教育長】 ありがとうございます。他にご意見いかがでしょうか。

【藤井委員】 文字を効果的に書くことや、日常生活や学習活動に役立つ活動の充実という点についてですが、各社とも書写での学びを活かすための学習内容が取り扱われています。東書の「生活に広げよう」という部分で取り扱われているのは、39ページの「職場訪問をしよう」とか65ページの「防災訓練に参加しよう」というような、それに向けての一連の流れの中に、様々な書く場面が存在していて、それぞれの目的に合った書き方があるということに気づくことができるようになっていきます。ポスターやパンフレット、感謝状などの書く活動をひとつずつ紹介するよりも、それぞれの違いなどについてよく考えられると思いました。教出の112ページや、光村の116ページにはメール作成に関する記載がありました。職場体験のお礼等、これからメールを送る機会も増える生徒さんにとって、相手に失礼のないメール作成について学習することは、これから本当にとっても大切だと感じています。光村は88ページのコラムに手書き文字の良さについても紹介がありました。これからの社会や生活を充実したものにするための、書写ならではの記載だと思いました。

文字に対する興味関心を高めるために、三省堂は、巻頭には楷書で書かれた谷川俊太郎さんの「朝のリレー」、巻末には行書で書かれたYOASOBIの「群青」を掲載しています。書体の違いによる印象が生徒になじみのある詩を通して身近に感じられるように工夫されていると思いました。コラムについても、各社工夫して掲載されているように感じます。各社とも、文字が中国から伝来したことなどが記載されていますが、東書は34ページや

78 ページのように、写真やイラストが豊富な資料を掲載しているところが特徴的です。他社と比較し、より生徒が興味を持ちやすくなるよう工夫されていると思いました。

【浦上教育長】 ありがとうございます。私としても、子どもたちが書くことに対してまずは興味関心を持たなければならないのではないかと思います。現代はメールやICT関係で書くことが減っているため、そういう学びを積極的にしていかなければならないと私は思っています。その点で、水野委員から書写ブックを活用するなど、理解しやすくまとめられている点についてご意見いただきました。また、村本委員からは、行書への意識づけがしやすいと、導入が精選されている点についてご意見がありました。また岩井委員からは、二次元コードが活用しやすい、再生しやすいという点でご意見がありました。藤井委員は、日常生活の中での文字表現について、手書き文字のよさについても取り扱っているのが光村の教材であった。ご意見がありました。他にご意見ありますでしょうか。

【水野委員】 今ご指摘いただきました書写ブックは、年賀状の書き方や都道府県等について書かれており、他教科と一緒に持ち歩いて使ってみようっていうのがあります。例えば、地理など都道府県みたいなどころでも合わせて持っていけるということで、とても教科横断的な学びにはなりやすいと思いました。

【浦上教育長】 ありがとうございます。他にご意見いかがでしょうか。

【岩井委員】 私も光村の書初めマスターブックを見させていただきました。書初めは家で書いてきなさいと学校で言うことも多いと思いますが、その際にただ書くだけではなく、書く時の準備から、字をどういう風に分析したらいいのかなど、すごく細かく丁寧に説明がついていますので、子どもたちが自宅において、自分で研究しながら書く時にはものすごく助けになると思いました。日常と違い、書初めは大きな紙に書くことが多いので、慣れていないという戸惑いも多いかと思いますが、それを本当に細かく書いていて助けになっていると思いました。

【浦上教育長】 ありがとうございます。他にご意見いかがでしょうか。

【藤井委員】 先ほど教育長もおっしゃっていたように、手書きの大切さ、良さというところについてですが、この光村の 88 ページ、89 ページは本当に親しみやすい漫画になっていて、子どもたちはこの絵とともに見て、理解しやすいと思います。私もそうだったのですが、文章で書いているだけではなく、如何に手書きが大事かということ想像しやすいような漫画で描かれているというのがすごくいいなと思います。

【浦上教育長】 ありがとうございます。ご意見をたくさん頂戴しましたので、そろそろ採決の方に進みたいと思います。本市の子どもたちの状況を総合的に勘案しまして、光村図書の「書写」が本市の生徒にとって最も適した教科書であると思いますが、この教科書を採択することにご異議ございませんか。

【全委員】異議なし

【浦上教育長】 全委員異議なしということで、「書写」の教科用図書につきましては、光村図書株式会社の「中学書写」を採択することが適当と決しました。

【浦上教育長】 それでは、「社会科（地理的分野）」について審議をいたします。選定委員会ではどのような観点でまとめられていたのか、事務局より説明をお願いします。

【黒井学校教育推進課長】 選定委員会の地理的分野の検討のまとめとしては、

- ・資料や写真が豊富に掲載されていること
- ・1時間の授業が充実するように内容が組織・配列されていること
- ・単元の振り返りで、知識、思考力、判断力、表現力をバランスよく養えること
- ・防災について自分事として深く学習できること

こういった点での議論をもとに、選定委員会として本市の生徒の実態に適している教科書として各発行者の特色をまとめ、答申に挙げております。

学習指導要領では、世界と日本の地域構成や、世界と日本のさまざまな地域について学習をするなかで、それぞれの地域の位置や分布、場所や人間と自然環境との相互依存関係などに着目して課題を探究したり、解決したりする活動を通して知識を身につけ、理解することなどがポイントとして示されています。以上でございます。

【浦上教育長】 ただいま事務局から説明がありましたが、委員のみなさま方、何かご意見はございませんでしょうか。

【村本教育長職務代理者】 どの教科書も生徒の発達段階に応じた記述内容や分量になっております。また、重要語句については、本文上で太字にされていて理解しやすくなっています。府の選定資料を見ますと、帝国は日本の諸地域の内容の割合が多く、写真や地図等の資料も多く掲載されているので、本市の生徒にとって資料活用能力を伸ばすという点で、活用しやすいかと思われます。九州地方で比べると、帝国と日文は各章のはじめに学習の見通しをもてるように、学習の流れを示しています。また、東書、日文、教出では、見開き2ページにわたり、地図や九州地方にまつわる写真を多く掲載しています。帝国は3ページを使用し、地図上にそれぞれの名所や特産品などを掲載したり、地図クイズの二次元コードを掲載したりして、生徒の興味関心を引く内容となっており、各社の工夫が見られます。

復習や振り返りの際に、必要な資料を見つけやすいかという点も重要です。この点、巻末の索引にも、各社の工夫が見られます。東書は事項と地名を分けています。帝国は事項と地名を分けたうえで、本文中に太字で掲載している言葉や二次元コードの用語解説に掲載している言葉をわかりやすく表記しています。日文も事項と地名を分け、本文中に太字で書かれているものは赤で示す工夫をしています。教出は事項と地名を分けていませんが、国名は緑色で示されており、各社とも必要な資料が探しやすいよう工夫されていると思

ます。

人権尊重に関する資料の掲載については、どの教科書会社も学習指導要領にそって世界の諸地域では様々な民族に関する資料を掲載しています。また、日本の諸地域の中では、北海道地方の学習の中で、アイヌ民族を取り上げています。帝国は 272 ページの本文中と 280 ページの「未来に向けて」で、東書では 258 ページの本文中と 267 ページの「未来にアクセス」で、日文では、278 ページの本文中と写真や挿絵でそれぞれアイヌ民族について取り扱っています。一番大きく取り上げているのが、教出で 264 ページの本文中と 276 ページ、277 ページの見開き 2 ページでSDG s も絡めた内容が掲載されています。以上で

【浦上教育長】 ありがとうございます。他にご意見いかがでしょうか。

【藤井委員】 組織・配列のところについてですが、どの教科書会社も見開き 1 ページで 1 時間が終わるように設定されています。導入から学習課題の確認、その後、本文を読んでも、本時の学習の振り返りをするという形になっています。流れが決まっていることですが、見通しを持つことができ、意欲的に参加できると思います。東書、帝国、日文では、話し合いなど対話的な活動を行う箇所を多く設定していました。教出の 7 ページでは、学習事項を直接書き込む形式の教科書になっていますが、そこにはメリットとデメリットがあると思いました。メリットについては、自分で書き込むことで内容を深く理解しやすくなったり、生徒が自分のペースで進められたりするという点が挙げられると思います。しかし、逆にデメリットとしては、書き込む時間の確保が必要になってくるだろうということや、ノートのように教員が頻繁にチェックしにくいことで、誤った理解が定着するリスクがあることなどが考えられます。特に、学習面で配慮が必要な生徒にとっては負担があるのではないかと思います。

教科等横断的な視点で見ると、どの教科書会社も小学校や歴史的分野・公民的分野との関連を示しています。帝国の 36 ページでは、他教科に関連がある場合には、色を変えて示しわかりやすく表示しています。東書の 150 ページでは、二次元コードを読み込むことで関連の教科のデジタルコンテンツにアクセスすることができるようになっている点が良いと思いました。

【浦上教育長】 ありがとうございます。他にご意見いかがでしょうか。

【岩井委員】 どの教科書も、主体的に課題を読み解いたり追究したりする学習展開になるよう工夫されています。生徒が主体的に学習するためには、地理的な見方・考え方を身に付けることが必要ですが、すべての教科書会社で巻頭において地理的な見方・考え方について掲載しています。東書では巻頭 6 で庄内平野を題材に、日文では巻頭 3、4 で山間部の村をイラストで示していて、帝国は巻頭 8 では様々な写真を用いて地理的な見方・考え方が例示されています。教出の方は、巻頭 2 を見ていただいたらと思います。

それから、各単元のまとめには、各社とも単元の学習を見開き 1 ページでまとめる工夫がされています。例としてヨーロッパ州の学習の振り返りページを見てください。帝国で

は 78、79 ページ、教出では 76、77 ページ、東書では 88、89 ページ、日文では 76、77 ページ、ヨーロッパの振り返りです。見ていただくと、各社とも、知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の 3 つの観点から出題して振り返れるように、そしてそれらがバランスよく養われるようにしています。中でも帝国では、白地図を使って地域ごとにどのような特徴があったかを振り返れる構成になっていて、学んだ内容が地図と共に知識として定着しやすい工夫がされています。

さらに、個人の興味・関心・課題に応じた学習という点では、各社とも、学習に役立つ情報を二次元コードで掲載しています。それぞれ、関連するウェブサイトへのリンクや動画、ワークシートなど、内容が充実しています。その中で、帝国は、ホーム画面が見やすく、生徒が必要な情報まで迷うことなく進めるところが良いと思いました。以上です。

【浦上教育長】 ありがとうございます。他にご意見いかがでしょうか。

【水野委員】 本市の地理的背景から考えると、防災や安全への関心や対応というのが非常に重要になってくると思います。大阪府教育委員会作成の教科用図書選定資料の社会の 15、16 ページを見てください。そこの自然災害や防災にかかる内容を取り上げているページ数から見ると、日文が充実していると思います。内容を見ると、各社でハザードマップが取り上げられており、避難先やルートを考える工夫がされています。帝国 150、151 ページ、それから、日文 155 ページでは、防災について自らの考えを発表するような学び合いの場も設定されています。特に、帝国の「ハザードマップを使って考えよう」というところですが、防災について対話的な学びがすぐ教室で実現できるようになっていて、学習課題も見やすく配列されており、これで授業が非常にアクティブになっていると思います。

【浦上教育長】 ありがとうございます。村本委員から、生徒の発達段階に適した資料や写真等が豊富に掲載されている点、それから、話し合い活動や教科横断的な学び、そして 1 時間の授業が充実するような内容、組織配列である点についてご意見いただきました。また岩井委員からは、単元の振り返りで、地理と関連付けて、知識技能、思考力・判断力・表現力を養える点についてご意見いただきました。それ以外に、私は特に防災が気になります。危険箇所をいろいろな写真や資料等が掲載された教科書を使いながら、自分事として学ぶ姿勢が一番大事だと思います。それから教科横断的な学習、学びができるという点もしっかりと捉えておかなければならないと感じました。そういう中で、特にご意見ございませんでしょうか。

【水野委員】 教育長の言われた防災のことですが、夏のシーズンには、あってはならないことですが、キャンプに行くと川で事故があったりします。そういった事例も最近報道でもありました。先ほどのアクティブラーニングの生徒さんの、避難場所を考えると、探究学習にも少しそういうテイストを入れてもらうことで、子どもたちが身を守る活動も、子どもが保護者になってからも、そういったことへの意識も高まると思いました。

【浦上教育長】 ありがとうございます。他にはございませんでしょうか。それでは採決に入っていきたいと思えます。本市の状況や防災に関わることも含めて、八尾の子どもたちにとってどの教科書がふさわしいかということ、総合的に勘案しますと、帝国書院の「社会科 中学生の地理 世界の姿と日本の国土」が本市の生徒にとって最も適した教科書であると思えますが、この教科書を採択することにご異議ございませんか。

【全委員】 異議なし

【浦上教育長】 全委員ご異議なしと認めます。よって、「社会科（地理的分野）」の教科用図書につきましては、株式会社帝国書院の「社会科 中学生の地理 世界の姿と日本の国土」を採択することが適当と決しました。

【浦上教育長】 それでは、「社会科 歴史的分野歴史」について審議をいたします。選定委員会ではどのような観点でまとめられていましたか。事務局より説明願います。

【黒井学校教育推進課長】 はじめに、9社のうち学び舎については見本本の送付がなかったため、選定委員会での検討ができませんでした。

選定委員会における歴史の検討のまとめとしては、

- ・我が国の歴史と関連させて、世界の歴史を多く扱っていること
- ・様々な視点から、人権尊重について配慮されていること
- ・地図や図、表やグラフ、年表などの資料を豊富に扱っていること
- ・歴史的な見方・考え方がわかりやすく示されていること

こういった点での議論をもとに、選定委員会として本市の生徒の実態に適している教科書として各発行者の特色をまとめ、答申に挙げております。

学習指導要領では、「歴史について考察する力や説明する力の育成」、「歴史的分野の学習の構造化と焦点化」、「我が国の歴史の背景となる世界の歴史の扱いの充実」、「民主政治の来歴や人権思想の広がりなどについての学習の充実」、「様々な伝統や文化の学習内容の充実」といったことがポイントとなっています。

【浦上教育長】 ありがとうございます。ただいま事務局から説明がありましたが、そのことも踏まえて、委員のみなさま方、何かご意見はございませんでしょうか。

【岩井委員】 世界の歴史の取扱いに関わってですが、中学校の歴史的分野の学習の中心はあくまで「我が国の歴史の大きな流れ」の理解であります。歴史の大きな流れを理解したり、多面的な視点で歴史的事象を捉えたりするためには、我が国の歴史と関連する世界の歴史を背景に、各時代の政治の展開、産業の発達、社会の様子、文化の特色など捉えることが必要です。

この点で見ますと、帝国は、特に世界とのつながりが重視される単元に「世界とのつながりを考えよう」という特設コーナーを設け、世界各地のつながりや社会の様子をイラスト・地図でわかりやすくまとめています。自由社は巻末に世界各国・王朝の興亡一覧とい

う資料を配置して、世界の動きが一目でわかるよう工夫したりするなど、各社とも同時代の世界の様子を適切に取り扱っています。

中でも日文は、各編の導入部分に必ず同時代の世界の様子を地図や資料で示していて、世界とのつながりの中で各時代の特色を捉えやすい配列になっていると思います。同様に、同時代の世界地図が掲載されている教科書は多いですが、単元の導入部分という決まった位置に世界地図が掲載されていることで、生徒はより世界とのつながりを学びやすいと思います。たとえば、日文の106～107ページを見てください。近世の日本の年表の隣に15世紀の世界地図があって、ヨーロッパ人が日本に来航した理由や背景がよくわかると思います。

我が国の各時代の歴史を、世界の動きの一部として捉える視点を持つことで、その時代の特色がより際立ち、多面的な理解につながると思います。

【浦上教育長】 ありがとうございます。他にご意見いかがでしょうか。

【藤井委員】 選定委員会での議論の観点として、「歴史における人権」の取扱いがあったかと思いますが、各社とも部落問題や、アイヌ民族、琉球王国、在日韓国・朝鮮人の歴史などの人権問題を、本文や特設コーナーなどで丁寧に取り扱っていて、人権尊重や多文化共生の意識を高める工夫が見られました。また、近隣国の領有問題についても、どの教科書も歴史の経過等が詳細に掲載されていて、北方領土、竹島、尖閣諸島については固有の領土と明記されています。

人権や生命の尊重という点で、歴史の学習において、子どもたちが戦争の悲惨さを感じ取り、二度と戦争起こさないよう、生命や人権、平和や共生を重んじる姿勢を育くむことは非常に大切だと思います。

教出は「戦争の記憶をつなぐ」という246ページがよくまとまっていると思いました。戦争について調べ、考え、伝える活動を通して、戦争の悲惨さや当時の人々の苦しみに対する理解が深まると思います。

また、戦争の悲惨さを学ぶだけでなく、二度と戦争を起こさない社会にしていくためにはどうしていくべきかを考えるという点では、日文の「戦時体制の言論統制の影響」について考える特設ページというのが、252ページにあります。それが非常に良いと思います。言論や出版が統制されることで社会がどのように変化したかを知り、考えることは、これからの社会を生きていくうえで非常に大切な資質だと思います。

また、本市にとって部落差別や民族差別の歴史はとても重要で欠かせない学習であると思っています。東書は218ページにあります。 「解放令から水平社へ」のコーナーが部落改善運動の始まりを取り上げていて、当時の動きが流れで理解しやすくなっていると思います。

あとは、男女共生の点で言うと、日文はコラムで各時代の女性ということを取り上げています。また、山川は259ページに戦後の女性と社会を年表でまとめてあります。男女共同参画社会の実現に向けて男女平等の意義について考えることができるようになっているなと思いました。

【浦上教育長】 ありがとうございます。他にご意見いかがでしょうか。

【水野委員】 歴史の学習において、資料から必要な情報を読み取り、資料を通して当時の様子を理解するという事は、学習にとって非常に大事です。資料を読み取ることでその時代の理解が深まりますし、これからの社会を生きていくうえで必要な資料を選択し、資料から自分に必要な情報を読み取る力というのは不可欠です。

各社の教科書に掲載されている資料についてなのですが、各社とも豊富な資料によって歴史の学びが深まるようになってきていると思います。先ほど藤井委員が触れられていた「戦時体制の言論統制の影響」についてですが、日文のところを見ると、特設ページがあり、二次元コードからワークシートがダウンロードできるようになっており、このワークシートを使って探究活動を展開するようなことができると思います。

それから、学習する時代の大きな流れを視覚的にマクロな視点で理解して、それでミクロな視点にいくということが歴史の学習で大変大事だと思います。育鵬社の「鳥の目で見えるコーナー」は、小学校で学習した人物も多く描かれていて、既存知識において、すでに持っている知識の中から新しい知識をネットワーク的につなげていくことができると思います。東書も各章の導入にキャラクター年表を掲載して、小学校の学習が振り返りやすい工夫がなされていますし、帝国書院は導入でタイムトラベルというコーナーがあり、各時代のイメージを視覚的につかみやすいよう工夫がなされています。

また、本市とのつながりで言うと、東書、教出、帝国、山川、日文、育鵬社というほとんどの教科書に、当時の高安、「河内名所図会」というのがあります。生徒さんの興味関心が高まるのが期待できます。

それから、どの教科書も資料が豊富で見やすいですが、日文は章の導入に資料を載せ、これから学ぶ時代のイメージをつかみやすいように工夫されていると思いました。例えば、日文の214ページ、215ページですが、明治期と太平洋戦争期の女性向け雑誌の表紙が掲載されています。この資料を見比べるだけで、これから学ぶ時代の雰囲気や、インターネットやスマートフォンを見ている世代もすごく感じられるのではないかと思います。

大阪府の選定資料を見ると、地図や図・表やグラフ、年表資料等の資料の数を総合すると日文さんが非常に豊富だと思います。年表は、歴史を理解するうえでものすごく大事です。日文が他社に抜きんで多く掲載されています。令和6年度の大阪府公立高校選抜でも、歴史上の出来事を時代順に並べ替える問いが出題されていて、出来事の推移を考察するという事は非常に重要であると思います。本市の生徒にとっては、年表資料の掲載が豊富で、それを読み取る力は非常に今後の学力の醸成ということで重要になってくると思います。

【浦上教育長】 ありがとうございます。他にご意見いかがでしょうか。

【村本教育長職務代理者】 歴史的な見方・考え方について、よろしいでしょうか。歴史的な見方・考え方を身につけるためには、ひとつひとつの事象について理解するだけでなく、その事象が起きた時期や、それまでと比べて変化した点、同時代の世界の動きなどに着目し、相違点や共通点などを明確にする必要があります。この点で言うと、東書、教出、

帝国、日文、育鵬社、令書は、各単元の導入部分に単元を貫く問いを設けており、歴史的な見方・考え方が身に付きやすくなっています。中でも日文は、導入に時代の移り変わりを視覚的に捉えるための資料を用いたり、各ページに見方・考え方の例を示したりするなど、歴史的な見方・考え方を身につけるための丁寧な工夫が見られます。

主体的・対話的で深い学びという点では、東書は発展学習に関するページ数が多く、みんなでチャレンジのコーナーでは、個人活動とグループ活動を段階的に明示することで、対話的な学びの深まりを促しています。他にも、帝国の対話コーナー、日文の学び合いコーナーなど、話し合い活動は多く取り上げられており、話し合いの学習をサポートする記述も充実しています。また、各社の二次元コードも、それぞれ充実しています。中でも東書、日文は掲載数が多く、難しい資料の解説動画や、思考ツール、ポートフォリオなど、さまざまな場面で活用できるのではないかと考えております。

【浦上教育長】 ありがとうございます。各委員からご意見いただきましたが、特に社会の勉強をするときに、日本史を学ぶイコール世界史を背景にして学ぶ。そしてそのときの時代背景をしっかりとつかむ。この3点セットで日本の歴史が理解できると思います。それを大切にしている会社が良いと思います。もう一つ、現在、各地で戦争が行っていますが、学校では、戦争は絶対に起こってはいけないことだと子どもたちへ伝えます。しかしながら、実際には戦争は起こってしまっているのです、その背景をしっかりと考える必要があります。過去に日本が戦争をしていたときには、言論統制というものが存在していました。そういう過去の経過を子どもがしっかりと知ることが大切ですし、子どもたちに教えていかなければなりません。そういうことをしっかりと書かれている教科書を選定することが大事だと思います。それでは、他にご意見がありましたらお願いします。

【藤井委員】 教育長がおっしゃった言論統制の影響を考えようという日文さんが載せていらっしゃるページは、私も非常に重要だと思います。テレビでは、本当に戦争をリアルにしている国の報道が目に入ってきて、もちろん国の戦時中のことや、その中であったこと、そして二度と起こしてはならないことということ自体は、子どもたちも頭ではわかっていると思いますが、そこでやはりどうしたら戦争を起こさないで済むのか、そしてまた、どういう状況になったら戦争に突き進んでしまうのかといったような、そういった奥行きのあるような学びが特に必要だと思いますので、日文のこの言論統制の影響を考えようという点が非常に素晴らしいと私は思いました。

【浦上教育長】 ありがとうございます。他にご意見いかがでしょうか。

【岩井委員】 私も世界の中の日本という位置付けで歴史を見ていくというようなことはすごく大事だと思いますし、資料が豊富というところで、資料と資料を関連付けて考えるそういう力は、八尾の子どもたちにとっては本当に必要なことだと思っています。だから、社会でいろんな資料を重ね合わせて関連させて物事を考えていくという、そういう力はぜひともつけていきたいと思っていますので、資料の多い日文さんがいいのではないかと考えています。

【村本教育長職務代理者】 私もこの日文は、子どもたちにとって非常に分かりやすくなっており、良いのではないかと思います。

【浦上教育長】 ありがとうございます。他にご意見いかがでしょうか。

【水野委員】 教育長がおっしゃった戦争には、世界恐慌から第2次世界大戦につながったという歴史があります。今、年表の話をしたのですが、日文は年表が多いですが、特に近代が非常に多いのです。年表と合わせて、世界史とともに考えていくという力をつけることは、世界史と日本史が離れる高校、さらには大学へとつながっていくために、日文の教科書は非常に良いのではないかと思います。

【浦上教育長】 それでは採決の方に移りたいと思います。八尾市の生徒の実態と、委員さん方のご意見も参考にさせていただきながら、それを総合的に勘案しましたら、日本文教出版の「中学社会 歴史的分野」が本市の生徒にとって最も適した教科書であると思いますが、この教科書を採択することにご異議ございませんでしょうか。

【全委員】 異議なし

【浦上教育長】 ありがとうございます。それでは、全委員ご異議なしということで、「社会科 歴史的分野」の教科用図書につきましては、日本文教出版の「中学社会 歴史的分野」を採択することが適当と決しました。

【浦上教育長】 それでは、「社会科 公民的分野」について審議をいたします。選定委員会ではどのような観点でまとめられていましたか。事務局より説明願います。

【黒井学校教育推進課長】 選定委員会の公民の検討のまとめとしては、

- ・主権者意識を育成するための内容が充実していること
- ・人権課題について多様な資料や学習課題を掲載していること
- ・生徒の社会的事象への関心を高め、社会参画意欲を促す内容が工夫されていること
- ・主体的・対話的で深い学びの実現や、個に応じた学びの充実に向けた内容が充実していること

こういった点での議論をもとに、選定委員会として本市の生徒の実態に適している教科書として各発行者の特色をまとめ、答申に挙げております。

学習指導要領においては、「現代社会の見方・考え方を働かせ、社会に見られる課題を把握したり、その解決に向けて考察・構想したりする学習の重視」、「18才選挙権に伴う主権者教育、多様な経済社会での消費者教育の充実を通しての社会参画意識の醸成」、「持続可能な社会の形成に向けた意識の醸成」などがポイントとして挙げられています。

【浦上教育長】 ただいま事務局から説明がありましたけれども、そのことも踏まえまして、

委員のみなさま方、何かご意見はございませんでしょうか。

【水野委員】 ただいま事務局からご指摘があった主権者意識の育成ということですが、選挙権の年齢が20歳から18歳以下に引き下げられ、もう10年弱くらいになっていると思います。この間、何度か選挙が実施されましたが、若者の投票率の低さというのが課題となっております。例えば、令和3年の10月の衆議院議員選挙では、全体の投票率56%で、10代43%、20代が36.5%ということになります。令和4年の参議院議員選挙においても同様に、10代20代の投票率が30%台となっております。選挙に限らず、今後社会に出ていく生徒たちにとって、主権者意識を高めることが非常に大事です。教科書の選定にあたっては、こういうことを醸成する教科書であるということも本市においても非常に大事です。この点で、教科書を見ていきますと、東書は「18歳へのステップ」というのが、東書の90ページ、138ページなどでありますが、選挙の流れや契約の注意点において理解が深まるようになっていきます。また、帝国は106ページに、中高生による少年議会を通して政治参加について考えるコーナーがあり、そういった政治参加について多く取り上げられており、主権者意識の高まりが期待できます。日文の91ページでは、衆議院選挙における年代別投票率の推移を示した折れ線グラフと併せて、選挙において関心の高かった社会的課題を年代別に表で示しています。例えば、子育て、それから雇用対策とか、そういうことってやはり年代別の特徴が出てくるということです。それらの資料を用いながら、若い世代の投票率が政治に与える影響について話し合うという活動があります。話し合いを通して、一人一人が選挙に参加することによって社会が変わることに気付くことができる内容になっており、主権者意識を高める学習活動として工夫されていると感じました。また、日文の116ページの上のところに写真が出ています。2のところですが、地方議会、大阪府八尾市ということで、八尾市議会を取り上げています。生徒にとって身近な地域を関連付けて学習できるとことで、興味・関心を引きやすいと思いました。

主権者意識とは観点が若干ずれるかもしれませんが、社会に出ていくという点で言うと、労働とか社会保障について学ぶことも重要です。現在、社会のあらゆる場所で働き方改革が行われていますが、労働の在り方がますます多様化しています。商品が多いということは、その選択をする環境や契約ということにもしっかりと意識が向いてないといけません。ですから、労働環境とか労働者の権利とか社会保障といった経済分野の学習を正しく理解して自分の進路を考えるということです。この点で、育鵬社では「人生をデザインしよう」という、自分の人生について具体的に考えるページもありますし、日文では「明日に向かって」というコーナーで職業について考え、年金の仕組みを理解するというところでキャリア教育というような内容がありました。

【浦上教育長】 ありがとうございます。他にご意見いかがでしょうか。

【村本教育長職務代理者】 選定委員会での議論の観点として、現代の人権課題に関する取扱いがあったかと思いますが、どの教科書も憲法、法律の単元を中心に様々な人権について取り上げています。教出は「なぜ差別は生まれるのだろう」の特設ページ、54ページで性の多様性やハンセン病について詳しく取り上げ、帝国は「偏見や差別をなくすため

に」という特設ページ、52 ページで、全国中学生人権作文コンテストの受賞作品を掲載しています。日文でも、二次元コードを使ってマララさんの演説動画を 68 ページで見られるなど、多くの教科書で、人権問題について自分の目線から考える課題を設けています。

インクルーシブ教育の観点で見ると、日文の 56 ページでは「まちのバリアフリーを探そう」で堺市のバリアフリー化をとりあげ、教科書に点字の凹凸加工を施し、実際に触って体感できるよう工夫しており、生徒が興味・関心をもち学習できると思いました。また、現代的な人権課題について取りあげている教科書も多く、教出では「AIと人権」の関わりについて詳しく 70 ページで解説したり、日文ではヤングケアラー問題について社会保障と関連させたりして取り上げております。本市の生徒の実態に即した現代の人権問題について学べる構成になっています。

社会の変化とともに人権に関する問題も変化しており、このような現代的な問題を取り上げることは重要だと思いました。

【浦上教育長】 ありがとうございます。他にご意見いかがでしょうか。

【藤井委員】 生徒が主体的に社会に参画していくためには、溢れる情報の中から自分に必要な情報を正確に読み取って、活用する力が必要です。東書の「スキル・アップ」、また、教出の「公民の技」、日文の「情報スキルアップ」、あとは育鵬社の「スキルアップ」など、必要な技能を身につけるための工夫それぞれでされているなと思えます。それから、日文は多くの生徒がつまずきやすい項目で、より丁寧な視覚的支援をしています。たとえば、166 ページでは為替相場について、イラストを多く用いて生徒の理解をスモールステップで助ける工夫がなされていて、経済が苦手な生徒でも理解しやすくなっていると思いました。

それから、日々社会で起きている事象に興味を持つという点についてですが、実際のニュースを多く取り上げていることも重要です。自由社の 94 ページの「ニュースを読み比べてみよう」は、改元の日の大手新聞社の記事を読み比べる課題になっていて、ニュースへの関心だけでなく、メディアリテラシーの育成にもつながると思いました。それから、日文も多くのページで実際のニュースを紹介しています。このような学習を積み重ねていくことで、生徒が社会で起きている出来事に関心を持ち、自ら考え表現する力の育成につながると思います。

また、大和川を有する本市の地理的な要因に鑑み、防災を題材にした教材は、本市の生徒にとっても欠かすことができないものだと思っております。府の選定資料の公民 20 ページを見てください。どの教科書会社も防災を重視し、様々な内容を取り扱っていますが、教科書を実際見ていきますと、帝国は 7 ページに情報化のページ、それから、育鵬社は 17 ページに AI 活用した防災について紹介するページがございます。これからの防災・減災に関する内容が掲載されており、生徒の視野が広がると思えます。また、東書は 126 ページで「復興と防災」というテーマを設け、理科や保健体育科の学習と絡めて防災について学べる工夫をしていると思いました。

【浦上教育長】 ありがとうございます。他にご意見いかがでしょうか。

【岩井委員】 主体的・対話的で深い学びについて、最初の観点でも話題になっていましたが、主権者教育が重視され、その中で見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びを実現するように工夫されている教科書が望ましいと思います。話し合い活動の充実という点では、東書では「みんなでチャレンジ」、帝国では「対話」のコーナー、日文の「学び合い」、育鵬社の「トライ」など、多くの教科書で対話的な学びを促す工夫がなされています。また、教出の「もしも、あなたの学校が避難所になったら」というページがあるのですが、身近な事例を通してルールの意義について考え、話し合う中で学びを深める良いテーマだと思います。

それから、見通しを持った学びという点で、東書、教出、帝国、日文、育鵬社は各章の導入で単元を貫く探究課題を設定して、それに対応する形で単元の学習が進む形になっています。生徒にとっては、学ぶ目的や内容が明確になるため、学習しやすいと思います。特に日文は、導入で身近な話題に関するマンガを掲載し、その単元の学習内容をわかりやすく示しています。

さらに、公民の学習というのは、社会科3分野のまとめにあたって、義務教育を終え、社会に出る前の最後の学習とも言えます。その視点から見ると、教出は232ページに学習のまとめとして「自分を変える、社会を変える」をテーマに自分の考えを提案する課題が設けてあり、学習のまとめとしてふさわしいと思いました。同様に、日文の219ページにある「チャレンジ公民」は、今ある社会課題をどう解決していくかを考えています。また、帝国の132ページ「アクティブ公民」では、主体的な社会参画力を育てる課題が設けられています。これらの課題を通して、主権者意識とともに、主体的・対話的で深い学びの実現にもつながると思います。

最後に、個に応じた学びという視点からは、思考ツールやデジタルコンテンツの充実も重要だと思います。二次元コードの点数は、府の選定資料にもありますように、東書と日文が特に多く、内容も充実していると思いました。思考ツールについては、東書、帝国、日文、育鵬社などが多く取り上げています。このようなコンテンツを必要に応じて活用する態度を身につけることも、生徒のこれからの人生で非常に大切だと思っております。

【浦上教育長】 ありがとうございます。各委員からご意見頂戴しましたが、特に水野委員がおっしゃった、政治経済、そして、選挙参画、そういう主権者意識を考える内容が豊富であるということ。その辺りでもう少しご意見いかがでしょうか。

【水野委員】 コンテンツということでは各教科書共に何か大きく内容が変わるということではもちろんないとは思いますが、例えば自分事として捉えて、授業の中で展開していくという運用の面で言うと、先ほど岩井委員がおっしゃった思考ツールに考えを書く、こういうことで自分が労働問題とか社会保障とか主権者意識みたいなことについてどう考えるかということ、新聞などから導き出していくということであれば、日文の最後のツールというところが私としては使いやすいのではないかと、実際に八尾の中学校の授業の中で授業として成立しやすいのではないかと考えました。

【浦上教育長】 ありがとうございます。今までのご意見の中で、日文がいいのではないかというお話がありました。本市の生徒の状況等も含めまして、総合的に勘案した結果、日本文教出版の「中学社会 公民的分野」が本市の生徒にとって最も適した教科書であると思いますが、この教科書を採択することにご異議ございませんか。

【全委員】 異議なし

【浦上教育長】 全委員ご異議なしと認めます。よって、「社会科 公民的分野」の教科用図書につきましては、日本文教出版の「中学社会 公民的分野」を採択することが適当と決しました。

【浦上教育長】 それでは、「地図」について審議をいたします。選定委員会ではどのような観点でまとめられていましたか。事務局より説明願います。

【黒井学校教育推進課長】 選定委員会の地図の検討のまとめとしては、

- ・ 地図活用の基礎について丁寧に説明されており、地図を通して地理的な見方・考え方が身につくこと
- ・ 防災や安全、環境問題、SDGsなど、教科横断的な学びも含めて多面的な学びが深まること
- ・ 生徒が主体的に地図を活用し、資料活用能力の習得につながる内容が充実していること

こういった点での議論をもとに、選定委員会として本市の生徒の実態に適している教科書として各発行者の特色をまとめ、答申に挙げております。

学習指導要領では地図としての項目はございませんが、社会科の目標達成のために適切な内容になっている地図帳であるか、また3年間を通して使用中、資料活用能力を高め、主体的に学べる地図帳であるかというポイントについても選定委員会で検討されています。

【浦上教育長】 ただいま事務局から説明がありましたが、そのことも踏まえて、委員のみなさま方、何かご意見はございませんでしょうか。

【岩井委員】 東書、帝国ともに学習指導要領の目標・内容に沿っていて、歴史的分野・公民的分野の学習でも活用できる内容で構成されています。生徒の発達段階も考慮して、学習に適した内容・表現になっており、興味をもって地図学習に入れるよう、鳥瞰図やイラストも充実しています。また、小学校での学習をふりかえることもできるようになっています。

帝国は、生徒が主体的に学習できるように、凡例、方位、地図記号、色、縮尺など、小学校で学習した地図の約束事をふりかえるページが充実しています。地図の基本的な見方・使い方や、要素の重ね合わせなど、地図活用の基礎となる部分も丁寧に説明していると思います。また、世界各州について、イラスト付きの鳥瞰図を掲載しています。29、30ページを見ていただいたらと思いますが、この鳥瞰図は、地域的特色を大観でき、地

形だけではなく、世界各国の自然環境や生活・文化、産業など、さまざまな特色がより視覚的に読み取りやすそうです。

東書の方は、「東京の歴史と治水」、それから 87 ページの「近畿の歴史と治水」、それから 111 ページの「江戸・東京の鳥瞰図」など、見開き全体を使った資料が設けられていて、歴史や地形を視覚的にとらえることで、親しみを持って学習に取り組めるようになっています。このような鳥瞰図は、地形と歴史や文化とのつながりを視覚的に理解することに役立ち、地理的な見方・考え方の習得につながると思います。

また、両社とも、修学旅行の事前・事後学習や調べ学習などに活用できる工夫があります。例えば、東書の 75 ページ、帝国の 95 ページを見ますと、訪れることが多い場所や施設等がイラストつきで紹介してあって、様々な場面で地図を活用した取組みを取り入れることで、地図への親しみや活用能力も高まると思います。

【浦上教育長】 ありがとうございます。他にご意見いかがでしょうか。

【藤井委員】 大阪府教育委員会作成の教科用図書選定資料、地図の 8 ページによりますと、帝国は、東書と比べて、防災・安全は約 3 倍、歴史的背景は約 1.5 倍、環境問題・環境保全は 6 倍、これらを中核とした考察のページ数を設定しています。一方、東書は、他地域との結びつきを中核とした考察のページが 1.5 倍設定されていて、各社の特徴が感じられます。

帝国は、災害をもたらす自然現象を、地震・火山と気象災害の 2 つに分けて巻末の主題図ページで扱ったり、防災コーナーで過去の災害を教訓とした日本各地の取組みについて扱ったりと、防災学習に関するページが充実しています。159 ページにあります「日本の自然災害・防災」では、地震や火山などによる自然災害の発生過程から被害・対策まで伝えられおり、理科との関連など、カリキュラムマネジメントをふまえた教科横断的な活用もできると思います。

あとは、SDGs の取扱いについてですが、東書は、8 ページに「現代社会の課題を解決するために SDGs を知ろう！」があり、SDGs に関する 17 のゴールから一つ選び、自分にできる取組みを考えさせる特集ページがあります。それから 13 ページの環境問題や 135 ページの災害対策などの現代的な諸課題に関連する資料を掲載し、様々な諸課題についての理解を促す工夫が感じられます。帝国も「地図で考える持続可能な社会」において、世界全体の課題となっている環境問題や脱炭素への動き、食料問題や紛争問題に関する特集ページを設けていて、特に SDGs の視点で捉えられる工夫として、関係が深いと考えられる資料に、専用アイコンが付けてあり、生徒にとっても使いやすいと思います。

【浦上教育長】 ありがとうございます。他にご意見いかがでしょうか。

【水野委員】 先ほど事務局からお話がありました。社会の教科の中で地図を活用することが最も多いと思いますけれども、両社、二次元コードを活用した様々な工夫がなされています。大阪府教育委員会作成の教科用図書選定資料の地図の 8 というところの、最後のページの一番下から 2 番目、二次元コードについては、東書が 82、帝国が 54 とな

っています。東書は、二次元コードで、デジタル地球儀や地図とか衛星写真を用いて、世界や日本の自然、宗教などの紹介を見ることができる社会科デジタルマップなどが用意されています。帝国は、学習内容の習得や生徒の調べ学習を支援するデジタルコンテンツが971と多く用意されています。地図活用のための基礎的なアニメーションやクイズ、発展的なウェブマップ、ジオグラフなど、さまざまなコンテンツがあって、地理的分野を中心に、授業時に必要な地図や統計なども示すことができます。デジタルコンテンツは、様々な理由で学校を休みがちなお子さんや、教室に行きにくい子どもさんが自分のペースで自学自習をするという、そういった家庭学習の観点からも非常に重要だと思います。

【浦上教育長】 ありがとうございます。他にご意見いかがでしょうか。

【村本教育長職務代理者】 資料活用能力についてですが、東書は、1見開きに1問以上、地図の活用法や学習を深める「ヒントとなる問い」を提示しています。1枚の図を見て取り組む問いが97、2枚以上の図を見て取り組む問いが37、自ら調べたり考えたりする問いが23用意されています。比較検討、発展的な学びを促し、生徒が主体的に地図を活用する力を養えるようになってきていると思います。帝国は、地図帳の使い方を5ページから段階を追って示しており、主体的な学習につながると思います。また、平等な社会の実現や社会参画への意識を高められるように、問いコーナー「地図で発見！」を計103か所、全156問を設け、生徒自らが世界の諸課題について考え、より良いあり方について検討したり、話し合ったり、協働して取り組めるような課題や作業も示しています。環境問題や脱炭素への動きなどの資料をはじめ、世界と日本の諸課題について深く考察できる主題図も多数あり、国際理解や国際協調の視点が工夫されているところも特徴と考えます。比較を通して地域の特色が捉えられるように、世界の主題図は、国や州ごとに自然環境、人口密度、言語、産業を同縮尺で示し工夫がされていると思いました。

【浦上教育長】 ありがとうございます。整理しますと、岩井委員からは、地図を通して地形などの自然環境と、歴史や文化などとのつながりを理解しやすい工夫がなされている点からのご意見、藤井委員からは防災や安全、環境問題などの現代的な課題があります。それに対しての思考が深まるような資料が豊富であることという視点でのご意見でした。また、水野委員と村本委員は、生徒が主体的に地図を活用して世界の様々なことについて学べる内容が充実している点等についてご意見いただきました。この地図を通して、様々なことを学ぶことが大事で、国の文化や自然環境、また、歴史あるいは文化のつながりなど、そういったことを含めて複合的に教科書を通して学んでいくというスタンスが一番大事だと私は思っています。そういう部分において、使いやすい工夫がされている教科書を選びたいと思います。今、ご意見いただいている中では、帝国書院が良いのではないかというようなご意見が多かったと思います。以上のとおり、帝国書院の「中学校社会科地図」本市の生徒にとって最も適した教科書であると思いますが、この教科書を採択することにご異議ございませんか。

【全委員】 異議なし

【浦上教育長】 全委員ご異議なしと認めます。よって、「地図」の教科用図書につきましては、帝国書院の「中学校社会科地図」を採択することが適当と決しました。

【浦上教育長】 それでは、「数学」について審議をいたします。選定委員会ではどのような観点でまとめられていましたか。事務局より説明願います。

【黒井学校教育推進課長】 選定委員会の数学の検討のまとめとしては、

- ・筋道を立てて説明する力の育成について、系統的に取り扱われていること
- ・キャリア教育や環境教育、消費者教育や平和教育など、数学の学びによって広がる世界を紹介していること
- ・個別最適な学びや協働的な学びにつながるデジタルコンテンツが豊富であること

こういった点での議論をもとに、選定委員会として本市の生徒の実態に適している教科書として各発行者の特色をまとめ、答申に挙げております。

学習指導要領においては、数学の目標として、「数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成する。」と示されております。また、本市の生徒につけたい力として、特に、複数の情報を結び付けて読み取る力、筋道を立てて表現する力が挙げられます。以上2点も踏まえて、検討していただけたらと思います。

【浦上教育長】 ただいま事務局から説明がございましたけども、そのことも踏まえまして、委員のみなさま方、ご意見いただければと思います。

【岩井委員】 本市の生徒につけたい力である筋道を立てて説明する力の育成についてですが、啓林館は、1年の58ページ「文字の式」のところで数に関する性質を予想し、その予想が正しいことを説明するまでの流れが丁寧に示されていて、条件をかえて考える場面も設けられています。また、2年の13ページ「式の計算」、3年の12ページ「式の展開と因数分解」でも同じ流れで考える場面が設けてあるなど、系統的な取扱いが充実していると思います。数研、学図も答えだけでなく、他者へ正確に伝えるためには何が必要かを考えること、様々な場面で多様な意見や考えを示すこと、対話の場面を多く提示するなどの工夫が見られます。数研は、1年の243ページでは理由の説明、3年の167ページでは方法の説明、3年の133ページでは事柄の説明といったように、学年に応じた説明する機会も豊富に設けてあります。それから、東書は、巻末の各学年の「数学の目でふり返ろう」において、様々な学年での学びや資料の共通点を考える課題設定があって、小学校から高校までの学習内容を関連させて考えることで、学習の見通しを持ちやすくなるとともに、つまずきの解消にもつながりやすくなると思います。

【浦上教育長】 ありがとうございます。他にご意見いかがでしょうか。

【藤井委員】 選定委員会での議論の観点として、キャリア教育や環境教育、消費者教育や平和教育など、数学の学びによって広がる世界を紹介していることについての取扱いが

あったかと思えます。各社、各学年の目標や内容、教科等横断的な視点も含めた課題設定がされていて、年間を通して、各領域を効果的に学習できるよう配列されています。啓林館、数研、教出、学図は、導入課題として身のまわり問題を取り上げていること、数学に関係する仕事や数学にかかわる世界、数学の学びによって広がる世界を紹介していて、そういうつながりを特に意識していると感じます。

また、数学を利用した問題解決的な学習展開について、問題設定、解決、解決の課程をふりかえる、深めるといった流れをもとに、さまざまな工夫がなされています。啓林館は、すべての単元に「〇〇の利用」の節を設け、身のまわりの題材を取り上げています。大日本と教出は、今後の学習だけでなく、先端テクノロジーなどを数学につなげることを促す工夫があります。このように、数学で学んだことを日常生活と関連させて考えることは、数学的な見方・考え方の獲得にとって有効だと思えます。

学んだことの発信という点では、東書は、各学年の巻末で、レポートの書き方と例を扱っています。3年の263ページでは、スライドの作り方のポイントを紹介するなど、ICTを活用して発表する活動も行えるようにしています。学図は各学年の巻末にある「表現する力を身につけよう」の課題において、1年で「まとめる」、2年で「伝える」、3年で「見直す」を学年の目標にして、レポートの作成・発表に加え、聞く人の注意点を示すなど、目的意識・相手意識をふまえた表現力やコミュニケーション能力を高める活動を意識していて、数学の学びを広げる良い工夫だと思えます。以上です。

【浦上教育長】 ありがとうございます。他にご意見いかがでしょうか。

【水野委員】 個別最適な学びや協働的な学びというのは、本当に令和の学校教育で考えていかなければいけないのですが、この学びにつながるデジタルコンテンツが豊富であるという点において分析すると、東書は、「一人一台端末を学びの文房具に」をキャッチフレーズで、授業の導入とかグループ活動、自学自習で使用することを想定し、学習の場面やねらいに応じた二次元コードが1752と最も多く用意されています。章の導入と深い学びのページに対応したワークシート、多様な意見が出やすい場面には「対話シート」がそれぞれ二次元コードで用意されています。数研は、公立高校の過去5年分の入試問題約4000問を自分で検索して解くことができるコンテンツが解答・解説つきで用意されており、学習や進路について、自ら目標をもって学びを進められるようになっています。また、各社とも、つまずきが多い内容については、誤答例などを示して、どこが間違っているのかを考えさせる問題が設けられており、難易度別に問題を分けていることで、少人数や習熟度別学習ができるようになっています。この点では、東書、啓林館、数研が特に活用しやすそうに感じました。

【浦上教育長】 ありがとうございます。他にご意見いかがでしょうか。

【村本教育長職務代理者】

啓林館は、生徒が操作して思考力を高める、問題解説動画など授業でも家庭でも使える、各章に関連する既習事項を確認できる等のデジタルコンテンツが1384と東京書籍に次い

で多く用意されております。また、二次元コードの動画のうち、ナレーションが含まれるものには、全て字幕がついてあります。二次元コードを活用したことで、教科書のページ数・重さが約1割削減されていた点も合理的でよいと思います。

二次元コードなどのデジタルコンテンツは、様々な理由で学校を休んだ場合や学校に来にくい生徒への学びの保障や自学自習や家庭学習の一助という観点からも、非常に大切だと考えます。また、教科書とコンテンツ、それぞれのよさをいかすことで、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実ができると思います。

【浦上教育長】 ありがとうございます。他にご意見いかがでしょうか。

【水野委員】 ICTの活用についてですが、本市は教育振興基本計画の基本方針においてもICTの活用推進というのがあり、ICT活用を広げて、より効果的な活用ができるよう進めているところです。その点で言うと、啓林館は表紙裏に「ICTの活用でひろがる数学の学習」という見開きページを設けられていて、まずはここに立ち返って授業をしていただくと、ICTの活用が広がるのではないかと思って、本市の実態にも適しているのではないかと思います。

【浦上教育長】 ありがとうございます。八尾の子どもたちの数学の学力実態を考えたときに、そういうデータ分析と比較しながら、なぜ、それがこうなるのかというあたりの理解度が劣っている部分があります。それを数学的な表現を用いながら説明するという力が必要とされています。

それを考えたときに岩井委員がおっしゃった、筋道を立てて説明する力を育てることが大事で、その点が工夫されているところはどこなのかというような話もされていたかと思います。その辺り岩井委員何かご意見ございませんか。

【岩井委員】 やはり毎回、系統立てて、この学年ではこういう風なところ、次はそれに乗かって次の学年でということで、説明していくのにも段階があり、学びを積み上げていくということが必要だと思います。その時に、啓林館では、学年に応じて数学をやりながら、積み上げていく、系統立ててそのことも考えられるというところがいいのではないかなと思いました。

【浦上教育長】 ありがとうございます。もう一つは、令和の日本型教育、個別最適な学びが、これから求められていることです。先ほどの水野委員からもご指摘ございましたが、その中でも、デジタルコンテンツが豊富であるということは、子どもたちの使いやすさ、協働的な学習や個別最適な学びにつながるため必要だと思います。だから、その点も村本委員がおっしゃっていましたが、啓林館の方が少しリードしているのかなと思います。それでは今から採決したいと思います。各委員さんのご意見を参考にさせていただくことを含め、八尾の子どもたちの実態がどうであるかということも考え合わせながら、最終的に総合的に判断すると、啓林館の「未来へひろがる」が本市の生徒にとって最も適した教科書であると思いますが、この教科書を採択することにご異議ございませんか。

【全委員】 異議なし

【浦上教育長】 それでは、「数学」の教科用図書につきましては、啓林館の「未来へ広がる」を採択することが適当と決しました。

【浦上教育長】 続きまして、「理科」について審議をいたします。選定委員会ではどのような観点でまとめられていましたか。事務局より説明願います。

【黒井学校教育推進課長】 選定委員会の理科の検討のまとめとしては、

- ・必要な情報を読み取り、論理的に考え表現する課題が豊富であること
- ・日常生活と関連付けて、基礎的な知識・技能の定着を図る教材が充実していること
- ・学習後に再考するコーナーがあり、主体的な学びにつながること

こういった点での議論をもとに、選定委員会として本市の生徒の実態に適している教科書として各発行者の特色をまとめ、答申に挙げられております。学習指導要領では、自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・事象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成することが目標とされています。

【浦上教育長】 ただいま事務局から説明がございましたが、そのことも踏まえて、委員のみなさま方、何かご意見はございませんでしょうか。

【村本教育長職務代理者】 論理的に自分の考えを構築し、表現することについては探究的なアプローチが非常に重要かと思えます。課題から仮説を立て、課題解決に向けての計画を構想することも大切です。その視点で見ますと、各社ともに課題の把握から課題の探究・課題の解決と科学的な探究の過程が明確になっており工夫が感じられました。そこで、2年生で学習する「還元」の実験のページを見てください。東書 57 ページ、大日本 47 ページ、啓林館 183 ページ、教出 51 ページ、学校図書 55 ページです。それぞれ実験のタイトルに違いがあり面白いなと感じましたが、学図は、仮説と計画でイラストを活用し協議することを意識させています。このように自分の言葉で考察する活動を繰り返し積み重ねていくことで論理的に考えを表現できるようになるのだと思います。さらに、啓林館では、各単元に1つ仮説や計画などを生徒自身が考える実験が設けられており、その中の一年生の巻末の探究シート、では、仮説の中で根拠を書く欄が設けられています。また、東書では思考ツールを活用して分類する活動が1年の23ページに例示されており、自身の考えを可視化し構築することを意識づけされていました。自身の考え表現するためには、書く活動や思考ツールの活用は効果的だと思います。

効果的な指導という点で重ねて申しますと、東書では単元の始めにスタート動画があり学習の動機付けの工夫がされていました。また、啓林館の1年261や262ページを見てください。ここではサイエンス資料として、「理科における話し合い」や「発表の進め方やポスターやスライドの作成のポイント」が掲載されており、教出では、各学年の巻頭に探

究の進め方が設置されています。折り込み式になっているので、子どもたちはいつでも学習の仕方を確認することができますね。本市の子どもたちの協働的な学びを実現することや考えを表現する力の育成という点で効果的だと考えました。

【浦上教育長】 ありがとうございます。他にご意見いかがでしょうか。

【藤井委員】 科学的な事象を日常生活に関連付けることについてなのですが、普段の授業から意識できる環境が必要だと思います。学んだことや科学的な事象を日常生活に関連付けるというこの部分について意識させることについては各社ともに工夫が感じられました。

学図では巻頭資料や巻末資料で取り上げていますが、他の4社では単元の途中にコラム等で取り扱っており、学びの延長で日常との関連が意識しやすいのではないかと思います。例えば、東書なのですが、こちらの1年生の教科書では「まちなか科学」、大日本では「くらしの中の理科」、教出では「ハローサイエンス」、特に啓林館の科学コラムには、1年生の方では「部活ラボ」や2年生の方では「お仕事ラボ」と内容がすごくわかりやすく、子どもたちの興味を引く工夫がされているように思いました。

そして、基礎的な知識、そして技能の定着を図る教材が充実していることについては、各社とも用語について太字や・色付きにしたりする等の工夫がされていました。また、観察・実験について、絵や写真を用いて、実験の手順や注意点など、考え方の道筋などもわかりやすく書かれています。それから、二次元コードからは、実験方法や器具の使い方等の動画を見ることができて、自らのタイミングで繰り返し参照することができるので、子どもたちにとっては技能の定着につながると思いました。その中で、学図に関して、観察・実験の紙面ページに実際の写真を掲載しています。1年76、77ページですが、このように実際の写真なので、器具の配置や大きさ等がイメージしやすくなるのではないかと感じました。以上です。

【浦上教育長】 ありがとうございます。他にご意見いかがでしょうか。

【岩井委員】 子どもたちが、科学的な根拠に基づいて様々な問題を理解し判断できるよう、理科で身につけた知識や科学的な視点を働かせることができる工夫がなされているかという点で、府の選定資料、理科の24ページを見てみますと、各社ともにSDGsに触れる機会や防災・減災教育に関するページを設定しています。SDGsについては、啓林館では関連するコーナーにSDGsマークがあって特に意識しやすいです。学図は各章の巻頭見開きに関連するマークを示していて、今から学習する内容との関連が意識しやすい工夫がされています。

八尾においても、市全体で「チャレンジ80」を掲げ、環境問題に取り組んでいるところですので、私たちの生活の中に科学技術が欠かせないものであることを理解しつつ、環境に及ぼす影響について学ぶことは、持続可能な社会に向けての知識・意識の向上につながるのではないかと感じました。

【浦上教育長】 ありがとうございます。他にご意見いかがでしょうか。

【水野委員】 学習後に再考する、おさらいをするということが主体的な学びにつながる点についてですけれども、府の選定資料理科 25 ページを見ていただくと、単元末・巻末等における学習のまとめ・練習問題ページというところがあります。これを見ると、学図が一番多く掲載されています。さらに、啓林館の 2 年生の 3 ページと 61 ページを少し見ていただくと、緑の右下に「金魚とのちがいは」と書いてあり、学んだ後にリトライと書いてあって、振り返りシートというものがあります。この二次元コードにアクセスし、振り返りシートを見ますと、学ぶ前にトライと学んだあとにトライの欄があって、学習後に再考することで自分の成長が感じられると考えました。PDFとExcelと両方あって、これは先生にとってはものすごく使い手があると思いました。

また、大日本の「行ってみよう！科学館・博物館」、1 年生の 278、279 では、理科に関係する展示とかイベントなど、夏休みのこの時期にこういうところに行き、子どもの主体性にもつながるような工夫がされていると思いました。それから、学図の教科書紙面のそれぞれに二次元コードが添付されていて、ミライ教科書へアクセスすることができ、多言語に配慮されているということを感じました。啓林館の教科書がICT活用に積極的に推進しており、本市の実態にに応じているなど考えました。

【浦上教育長】 ありがとうございます。各委員のお考えを発表していただきましたが、特に水野委員がおっしゃったICT関係ですが、八尾市でもICTを活用した授業づくりを頑張っています。子どもたちもそのICTを活用し、自分のタブレットを使いながら、鉛筆やノートと同じような感じで使いますので、それがうまくつながるような教科書、そして教材がある会社が一番望ましいと私は思っています。それから、理科も、数学の課題と同じで、仮説を立て、それに対する計画を立てながら、必要な情報を読み取って、論理的に表現するという力を学ぶ教科でもあると私は思っています。そういう意味においても、先ほど村本委員もおっしゃいましたが、啓林館の教科書がいいと思いました。皆様方、この辺りで、ご意見をもう少し頂戴したいと思います。

【水野委員】 今、教育長がICTのことをご指摘されましたけど、理科においてICTを使うことは、探究学習の仮説を立てて実験をしていくところでもかなり役立つと思います。例えば、実験をする前にインターネットに公開されているような情報を収集するということが考えられます。啓林館の最初に霧の話が出ていますが、霧は簡単に出ません。例えば、そういうことを探究学習とセットで考えたときに、先ほど申しあげた啓林館さんの教科書はすごくそこにマッチすると思いました。以上です。

【浦上教育長】 ありがとうございます。他にご意見いかがでしょうか。

【藤井委員】 どちらの会社の教科書も本当に良く出来ていると思います。今、おっしゃっていた探究学習についてはやはり大事だと思い、そういう面でも確認してみました。啓林館は、巻末に探究シートがついていて、子どもたちにとって使いやすい教材だと思いました。すべての学年について、良い工夫だという印象を持ちました。

【浦上教育長】 ありがとうございます。それでは採決に移らせていただきます。答申、それから本日の各委員から出していただきましたご意見を受けて、今ここで協議した結果をもとに、私の方からまとめさせていただきます。総合的に勘案しましたら、啓林館の「未来へひろがるサイエンス」が本市の生徒にとって最も適しているということで、この教科書を採択することにご異議ございませんでしょうか。

【全委員】 異議なし

【浦上教育長】 全委員ご異議ありませんので、「理科」の教科用図書につきましては、「啓林館株式会社」の「未来へひろがるサイエンス」を採択することが適当と決しました。

【浦上教育長】 それでは、「音楽（一般）」について審議をいたします。選定委員会ではどのような観点でまとめられていましたか。事務局より説明願います。

【黒井学校教育推進課長】 選定委員会の音楽一般の検討のまとめとしては、

- ・音楽表現の創意工夫について、焦点化された活動が設定されていること
- ・生活や社会の中の音や音楽について丁寧に取り扱われていること
- ・生徒の興味関心が高まるように、教材や資料が工夫されていること
- ・体験的な活動を通して学びが深められるような内容になっていること

こういった点での議論をもとに、選定委員会として本市の生徒の実態に適している教科書として各発行者の特色をまとめ、答申に挙げております。

音楽一般で学習指導要領では、音楽科の特質に応じた言語活動を通して、音楽表現を創意工夫することや生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わることなどが改訂のポイントとなっております。

【浦上教育長】 ただいま事務局から説明がありましたが、そのことも踏まえて、委員の皆様方、何かご意見はございませんでしょうか。

【岩井委員】 音楽表現の創意工夫という点についてですが、教出では、音のスケッチという創作活動のページが設定されています。2・4年下の30ページにはみそラーメンの言葉のリズムを使って、言葉の反復や重ね方を工夫した創作リズムを考案する活動など、プラスαの学習を用意して、各校の実態に合わせてカリキュラムを工夫できるよう配慮されています。

一方、教芸ではレッツクリエイトという創意工夫のページがあって、課題や条件に沿って音楽を創作する学習活動ができるようになっています。友だちと一緒に話し合い、協力しながら活動する内容になっているのですが、登場人物の吹き出しが考えるヒントになるようになっていて、生徒の創作活動を支援する役割になっています。創作過程の中で、中間発表をして意見交換をする場面が設けられていて、その意見交換を踏まえて再度音楽を完成させるようになっていくところが、非常によいなと思いました。

また、教芸は1年の16ページと2・3年上の32ページに創作活動につながるようなリズムゲームの掲載があります。ゲームを通して、他者との対話的な学びができる活動を設定しています。体験的な活動を行う中での学びなので、生徒にとってもより学習意欲が高まる効果が期待できると思います。

【浦上教育長】 ありがとうございます。他にご意見いかがでしょうか。

【藤井委員】 社会の中の音や音楽についての取り扱いというところで、どちらの教科書会社でも、国内のみならずアジアや世界の音楽について資料とともに掲載されています。教出では1年の58ページにアジアの音楽文化について多く取り扱われています。それぞれの国の音楽から多様性にも気づくことができる内容になっています。教芸にも1年の64ページにアジアの民族音楽についての学習があります。両社とも学年が上がると、世界の音楽についての記載があり、音楽を通じた国際理解にもつながるよう配慮されていると思いました。

また、教芸は、1年生、2・3年生の上、下全ての教科書で、生活や社会の中の音楽について紹介がなされています。オンライン上の生配信で現地に行かなくてもライブを楽しむことや、医療や介護の分野における音楽の活用等が記載されていて、生徒に身近な内容や、音楽が社会の中で果たしている役割や価値について知ることができるようになっていきます。また、今日的な課題であるSDGsとの関わりも記載があって、中学校を卒業した後も豊かに音楽と関わっていける様子が多く紹介されています。

今の中学生は身の回りに様々なICTツールがあって、インターネット上から手軽に音楽をダウンロードすることができます。そういった中学生を取り巻く状況を考えると、どちらの教科書にも、著作権についてのコラムがあり、著作権を侵害せずに音楽を楽しむ方法について考えられるように配慮されていて、そういったところがよいと思いました。

【浦上教育長】 ありがとうございます。他にご意見いかがでしょうか。

【水野委員】 どちらの教科書会社も、非常に生徒が興味を持てるように多くの教材を取り上げていると思います。それから、どちらの教科書にも歌唱教材として夏の思い出が扱われています。教出では、1年の18ページ、それから教芸では2・3年上の18ページとなっています。どちらも尾瀬ヶ原の豊かな自然の写真がページいっぱい広がっており、歌詞にも出てくる水芭蕉とか石楠花の写真も掲載されています。歌詞の世界のイメージが広がって、歌唱の際にも生かせるような紙面になっていますので、今の子どもたちには非常に訴求力があると思いました。教芸では、歌の表現についてしっかりと考えられるように、22から23ページに歌唱表現の工夫について話し合うという活動があり、歌詞の内容をみんなで話し合う、探究することは、他の教科、国語にもつながると思いました。

鑑賞についても、教出では1年48ページの魔王のように楽曲の世界観がより伝わるよう、ページ全体に絵画を掲載しています。迫力のあるページになっていてよいと思いました。

また、両社ともボレロというものを扱っています。どの部分をどのような楽器で演奏さ

れているかが分かるようにイラストで示されており、だんだんと楽器が増えていくのが視覚的にわかるような感じになっていて、鑑賞するときも教科書を見ながら、ボレロの良さや魅力についてまとめたり、作曲者のラヴェルが生きた時代、当時の話や日本の資料を比較したりすると、まったく異なる歴史や地域などにもつながっていくと思いました。

二次元コードを使った動画や音のコンテンツも両社ともに工夫をされています。先ほどの夏の思い出、花、それから浜辺の歌、荒城の月などの日本の歌については、どちらも自然豊かな映像や関連資料を視聴できるようになっています。また、様々な楽器の音色についても映像を通して確認することができるようになっていて、本当に豊かな学びにつながるなと思いました。私もここ数年で音楽の授業が変わってきたなと思います。府の選定資料によると、二次元コードの数は教出が38に対して、教芸は124と、教芸の方が豊富に掲載されています。

また、表紙を見てみると、教芸は現代的なイラストになっていて、重ねていくと物語になっているという工夫があり、子どもたちも興味があって、ここから音楽を好きになっていくということであると、とてもいいのではないかなと思います。先ほどの理科とはまた違った、人間にとって必要な教科というか、人生を豊かにする教科だなと改めて思い直しました。

【浦上教育長】 ありがとうございます。他にご意見いかがでしょうか。

【村本教育長職務代理者】 両社とも体験的な学習や対話的な学習ができるような工夫が随所に見られました。例えば、教出では、1年の60ページにアジアの音楽について整理してまとめたあと、話し合おうという活動を設定しています。また、レッツトライというコーナーがあり、ケチャを体験しようという活動や指揮をしてみようなどの体験的な活動を入れており、面白いと思いました。

教芸では、「リズムで楽しもう」や「指揮」などのページがあり、実際に体験して楽しみながら学習できるように工夫されていました。

また、教出では「アクティブ」、教芸では「学びのコンパス」という話し合い等を通して考えるページがあります。どちらも対話をしながら学びを深められるよう工夫されていますが、学びのコンパスは特に主体的・対話的な学習の実現に向けて工夫されていると感じました。学習のポイントが明記されていたり、考える際の視点になるようなことをキャラクターの吹き出しも使いながら記載されていたりと、すべての生徒が、音楽の学習に取り組めるよう配慮された作りになっていると感じました。

教芸の1年と2・3年下の教科書の巻末にある、「音楽の学びを振り返ろう」というページでは、自分のお勧めしたい曲のよさをプレゼンする教材があります。生徒の主体性を大切にしながら、1年間の学びを振り返ったり確かめたりすることのできる工夫された活動になっていると思いました。

【浦上教育長】 ありがとうございます。岩井委員からは、創作活動などの音楽表現についてご意見いただいたと思います。それから藤井委員からは、生活や社会の中の音について、ご意見頂戴したと思います。また、水野委員からは、生徒の興味関心が高まるよう

な教材や資料が扱われている点、その辺りでもご意見いただきました。そして村本委員会からは体験的な活動や対話的な活動を通して学びが深められるような内容になっている点のご意見も頂戴したと思います。

やはり中学生は、音楽が好きか嫌いかははっきりしています。これは、私の中学校の経験からですが、音楽が嫌いで受け入れられない子もいます。やはり、子どもの興味関心を引くような、教材や歌があれば変わると思うので、現代的な音楽も取り入れていくことも大事です。しかし、古典的な部分も学習の一環として入れておかなければならない。そういうことで教科書会社も教科書作っておられると思います。各委員さんのご意見を頂戴していたら、教芸が少し上回っているように感じました。各委員さん方のご意見頂戴したことも含めまして、総合的に勘案しまして、教育芸術社の「音楽（一般）」が本市の子どもにとって最も適した教科書であると思いますが、皆さん、この教科書を採択することにご異議ございませんか。

【全委員】異議なし

【浦上教育長】 全委員ご異議なしと認めます。よって、「音楽（一般）」の教科用図書につきましては、株式会社教育芸術社の「中学生の音楽」を採択することが適当と決しました。

【浦上教育長】 それでは、「音楽（器楽）」について審議をいたします。選定委員会ではどのような観点でまとめられていましたか。事務局より説明願います。

【黒井課長】 選定委員会の音楽（器楽）の検討のまとめとしては、

- ・楽器を演奏するうえで、紙面が見やすく活用しやすいこと
- ・対話的な学習活動を通して音楽表現を身に付けられるような工夫があること
- ・資料がわかりやすく、充実していること

こういった点での議論をもとに、選定委員会として本市の生徒の実態に適している教科書として各発行者の特色をまとめ、答申に挙げております。

音楽（器楽）で学習指導要領では、音楽（一般）と同じく、音楽科の特質に応じた言語活動を通して音楽表現を創意工夫することや、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わることなどが改訂のポイントとなっております。

【浦上教育長】 ただいま事務局から説明がありましたが、そのことも踏まえて、委員のみなさま方、何かご意見はございませんでしょうか。

【水野委員】 器楽においては、特に楽器を演奏する際の演奏方法についてわかりやすく示されるというのがすごく大事であると思います。先ほど、教育長も音楽のところで好き嫌いが分かれるという話があったのですが、楽器をどう扱うかというのも一つのポイントで、図や写真などで運指などがよくわかることが重要だと思います。どちらの教科書も、基礎的な知識や奏法を身に付けられるように、分かりやすい写真や図を示すなどの工夫が

されていると思いました。どちらも、ねらいが明確に示されて、ステップを刻みながら、技能を身に付けられるようになっていたと思います。

たくさんの楽器が紹介されていますが、どちらの教科書も小学校からの接続を意識して、リコーダーが最初に扱われています。私は長くスクールカウンセラーをしていまして、生徒の支援もしていたのですが、実は意外にリコーダーがすごく苦手で、そこでつまづく生徒が少なからずいました。それで、教出は8から10ページ、教芸は10から14ページで、基本的な知識や姿勢、構え方について記載されています。見比べてみると、教芸ではリコーダーのくわえ方についての留意点やタンギングのポイント等についてより詳しく記載されていました。

教出には10ページにあるように1つの音だけで演奏できる曲を紹介していて、初期演奏に適していると感じます。リコーダーの楽譜を見ていると、中学校から扱うアルトパートと小学校で行っていたソプラノパートがあります。教芸はアルトパートが常に上の方に統一されているので、どの生徒にとってもわかりやすい配慮がされているように思います。一方教出は、11ページのように、ソプラノとアルトのパート位置が統一されていないため、生徒によってはより注意深く確認する必要があるかと思いました。

また、巻末資料の、リコーダーの運指表とギター、キーボードコード表についてですが、教出は折り込みページの裏と表にそれぞれ印刷されている形になっており、例えば譜面台等において演奏することを想定すると、表裏なので少し使いにくいのかなと感じました。また、ギターのコードを抑え方については写真で掲載しています。一見分かりやすそうですが、どの弦を抑えているのか逆に分かりにくいという部分もあるように思いました。一方、教芸は、巻末にそれぞれ見開き2ページに掲載されています。ページを開くためのスペースや開きやすいという点で、楽器を弾きながら活用しやすいのではないかと思います。またギターの弦の抑え方がイラストになっており、どの指でどの弦を抑えているのかというのがより分かりやすく示されているように感じました。

【浦上教育長】 ありがとうございます。他にご意見いかがでしょうか。

【岩井委員】 教芸は学びのコンパスのコーナーにおいて、表現活動を通して様々な音楽の力を身につけられるように工夫されています。例えば、55ページの学びのコンパスでは楽曲の構成について着目し、リズムの強弱や音の重なりについて追及していくという発展的な内容を扱っていますが、キャラクターの吹き出しを使って、ポイントを明確にしているところが非常に丁寧だと思います。また、生徒たちが感じるだろう学習上の疑問点について、18ページの下のようにQAを示していきまして、学習上の細かな支援をしている点において配慮が見られると思います。また、学習したことを活かして、対話的な学習につなげるような工夫も見られます。

一方、教出の方では、レッツプレイやレッツトライの中で、音のスケッチのコーナーがあり、友達と一緒に表現の工夫を考えたり演奏したりする活動ができるよう工夫されました。また、30ページでは、表現の仕方を調べてみようとして、学習してきた楽器の特徴について自分なりにまとめて、他者が感じたことと対話を通して、よりその楽器についての理解を深められるように工夫されていました。隣のページには発展として、世界

の「吹く楽器の仲間たち」が紹介されたページがあり、生徒たちの興味を広げる工夫があるなど感じました。

教芸の8ページには、表現活動の中でどのような音楽の力を身につけるのかが、わかりやすくまとめられていました。授業者にとっても目標を意識して指導ができるのではないかと思いました。また、16ページには、「曲想を感じ取って、表情豊かに演奏しよう」のように、学習のめあてがまとまりごとに目立つようにレイアウトされている点も、配慮されているなど感じました。

【浦上教育長】 ありがとうございます。他にご意見いかがでしょうか。

【藤井委員】 資料などに注目して見ますと、リコーダー学習の1つで、音の切り方やつなぎ方を表現するアーティキュレーション、こちらについてはどちらも扱っていますが、教芸17ページでは、文章と楽譜で紹介しているのに対して、教出20ページでは二次元コードからそれぞれの演奏にアクセスできる点が工夫されているのではないかなと思いました。

ただ、デジタルコンテンツに関しては、府の選定資料8ページに、二次元コードの数について、両社を比較してありますが、教出は24個、教芸は43個で、教芸の方が多く掲載されており、より多くの資料にアクセスできるようになっています。

また、どちらの教科書においても、プロの楽器の演奏者からその楽器についての紹介コメントが掲載されています。教出は8ページや22ページ、教芸は34ページや50ページに記載があります。これからその楽器について学習する生徒たちにとって、身近に感じられたり、より楽器の良さや魅力が伝わったりする工夫だと思いました。

その他の点では、両社とも巻頭に様々な国の楽器を紹介していて、音楽の多様性と音楽を通じて多くの国が繋がっている様子を感じさせます。また、教出は4ページにストリートピアノの紹介がありますが、音楽を通して、知らないもの同士をつなげたいという意味を持っていると思いました。宮城県仙台市の空港に置かれたストリートピアノには、震災の記憶と復興への願いを伝えるとともに、音楽の力を通じて心の復興に寄りそうという意味もあり、学習面以外の音楽の価値を伝える重要なコラムだと思いました。

【浦上教育長】 ありがとうございます。他にご意見いかがでしょうか。

【村本教育長職務代理者】 私からも、資料についてよろしいでしょうか。まず、目次について、教出では、各校の実態に応じて学習内容を選択できるよう工夫されていました。6ページの目次を見ると上段に演奏の仕方を身につけようという基礎的な内容が掲載されています。下段は合わせて演奏しようという内容になっているので、実態に応じて組み合わせる学習を深めることが可能だと思います。

一方、教芸の目次の構成としては、前半は楽器ごとに整理されており、後半にアンサンブルや演奏のページと構成され、後半になるにつれ、より発展的な内容になるよう配列されています。また、前半のリコーダーはレッスンごとに見やすく整理されて書かれており、徐々にステップアップしていく様子が目次からも伺えるようになっていました。

また、日本の伝統文化と音楽の関わりについて、教出では、58ページの太鼓のページで祭りの写真や古墳で発見された太鼓の埴輪の写真などを紹介し、興味を持たせる工夫がされていました。教芸では、箏、三味線、太鼓、篠笛のそれぞれのページに祭りや文楽等で演奏されている写真を掲載するなどして、その楽器が演奏される場面の雰囲気とも伝わるような工夫がされていると感じました。とりわけ、58ページには雅楽や能、歌舞伎等の伝統文化にたくさんの和楽器が使用されていることが一目見てわかる資料が掲載されています。また、管楽器や弦楽器と打楽器の組み合わせについても整理されていると感じました。

両社とも、資料のページがありますが、教芸では、68ページで、バンドの世界をのぞいてみようという資料を扱っています。生徒にも馴染みのあるバンドの写真やバンドスコアを掲載し、音楽への興味関心をより高められるようにしています。そのほか、楽器の図鑑や、部活動で和楽器に取り組む中学生の紹介など、資料が充実していると感じました。

【浦上教育長】 ありがとうございます。他にご意見ございませんでしょうか。

【藤井委員】 両方の教科書の背表紙をめくったところに、まず教出の方は右側に様々な用語、記号がありました。また、教芸は、音楽の約束ということを書き左側に書いてあります。私自身は音楽をずっとやっていましたが、この教芸の方の音楽の約束は、非常に詳しく、細かい記号も説明が多く書いていて、一覧になっていて分かりやすいと思いました。だから、楽譜を見ていた時に、このマークは何だろうと思った時に調べやすいというのは、教芸の教科書の方が読みやすいと思いました。

【浦上教育長】 ありがとうございます。皆さんからは、楽器を演奏するうえでのポイントなどをわかりやすく示されている点や、対話的な学習を通して、音楽表現を身に付けられるような学習活動が工夫されているかどうか、また内容が深まったりするような資料が充実しているかどうか、そのあたりで判断したいと思います。本市の生徒の実態、それから答申、本日のご意見、それを参考にして総合的に勘案しますと、教育芸術社の「音楽（器楽）」が本市の生徒にとって最も適した教科書であると思いますが、この教科書を採択することにご異議ございませんか。

【全委員】 異議なし

【浦上教育長】 全委員ご異議なしと認めます。よって、「音楽（器楽）」の教科用図書につきましては、株式会社教育芸術社の「中学生の器楽」を採択することが適当と決しました。

【浦上教育長】 それでは、「美術」について審議をいたします。選定委員会ではどのような観点でまとめられていましたか。事務局より説明願います。

【黒井課長】

選定委員会の美術の検討のまとめとしては、

- ・創作意欲を掻き立てる内容が充実していること
- ・美術と社会や日常生活との関わりがもてる内容になっていること
- ・技法などに関する資料が授業の中で活用しやすいこと

こういった点での議論をもとに、選定委員会として本市の児童の実態に適している教科書として各発行者の特色をまとめ、答申に挙げられております。

学習指導要領では、「表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を育成すること」が目標とされております。

【浦上教育長】

ただいま事務局から説明がありましたが、そのことも踏まえて、委員のみなさま方、何かご意見はございませんでしょうか。

【村本教育長職務代理者】 美術においては、造形的な視点についての理解が重要で、対象の何に着目して考えればよいか、見方・考え方に気づかせることが大切だと思います。指導者の言葉がけも大切ですが教科書でも意識づけができたらと思っています。そこで日文では題材ごとに、「鑑賞の入り口」や「造形的な視点」を示しており、鑑賞や表現活動中も意識することができるよう工夫されています。同様の工夫が光村でも見られ、それぞれの題材に「鑑賞」と「ポイント」として鑑賞が深まるポイントを示し、「表現」では作品の発想を広げ、構想を練るための具体的なたてが記されています。開隆堂でも「鑑賞」「発想・構想」の小見出しで子どもたちにとって確認・検討がしやすく工夫されています。また、先生のキャラクターの一言も「見方、考え方」に気づかせるいい工夫だと思いました。

二次元コードに関して申しますと、各社ともに掲載作品を回転させて鑑賞することができるものがあるのですが、日文と光村は360°回転させることができます。例えば、火焰型土器を真上からも見ることができ、土器の中の焦げ跡まで見ることができました。特に、日文は360°回転の動きもスムーズで操作性がよいと思いました。スマートフォンやタブレットを使って美術的な表現について学んだりできるのは子どもたちにとって、より美術を身近に感じることで、豊かな創造に結びつくと思います。以上です。

【浦上教育長】 ありがとうございます。他にご意見いかがでしょうか。

【岩井委員】 美術と社会との関わりという点でみると、三社ともアプローチには違いがありますが、障がい者理解についての内容が取り扱われています。また、光村の2・3年の70ページ、「メッセージを伝える」というところでは、平和の大切さを伝えるポスターや平和を願うデザインTシャツが掲載されていました。日文でも、2・3年の上の42ページ、「その1枚が心を動かす」というところでは平和を伝えるポスタープロジェクトが掲載されていて、開隆堂では2・3年68ページでは、「目にとまる、心にとまる」で平和へのメッセージを伝えるポスターが掲載され、三社ともに平和学習とも関連して学習す

ることができるようになっていきます。

また、国際理解や国際協調という視点で見ても三社ともに海外の生徒の作品を掲載していて、子どもたちの興味を引き付ける工夫をしていました。

さらに、美術と日常生活との関わりという観点では、光村の美術2・3の86と87ページ「形や材料で比べる」という題材で、様々なカップを鑑賞して、生活の中の美術の働きや美術文化についての見方や感じ方を広げる活動が取り上げられています。大阪府の教科用図書選定資料、美術13ページの「生活の中の美術の働きに対する系統的な学習を図っているページ数」というのを見ますと光村が際立っており、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力の育成という点では適しているのではとないかと思えます。

【浦上教育長】 ありがとうございます。他にご意見いかがでしょうか。

【水野委員】 先ほど岩井委員の話の中でカップというのがありましたが、生活デザインや工業とすごく関係があり、もう一つデザインと関係があるもので、パラリンピックが開催されていますが、ピクトグラムがすごく東京オリンピックで注目されました。ピクトグラムは、文字を使わずに図や絵で伝えたいことを示すということで、言葉が違う外国の方や漢字が読みづらい方にも直感的に伝わるものであり、ユニバーサルデザイン的なものかと思えます。デザインや工業と、かなり重複するところかと思えます。私たちの生活の場面でも標識などで見ることができそうですが、光村では美術2・3の76、77ページ、東京オリンピックのグラフィックデザイナーの方が出ていますが、開隆堂では美術2・3の66、67ページ、日文では美術2・3上の40、41ページで出ております。各社とも、ピクトグラムについて非常に充実させていると思いますが、光村は、防災教育の観点からということでも踏み込んでいて、地理でもありましたが、防災教育での深まりということにかなり貢献できるので、横断的な学びにもいいのではないかと思えました。

【浦上教育長】 ありがとうございます。他にご意見いかがでしょうか。

【藤井委員】 美術の教科書は、会社ごとに教科書の編成が違っていました。日文は1年生1冊と2・3年生の上・下の合計3冊、開隆堂は1年生と2・3年生の2冊、光村は1年生と2・3年生、技法などの資料をまとめた別冊で合計3冊という構成になっています。この光村の別冊は少しサイズが小さく作られていて、表現活動中でも机の上に置いて参考にしやすい工夫がされていました。三年間を通じて使いやすく仕上がっていて、子どもたちの創作意欲が向上するのではと思えました。

鑑賞資料についてですが、3社共に「原寸大鑑賞画」を掲載しています。子どもたちが作品の大きさを実感できるとともに、細部の表現を鑑賞できるように工夫されています。特に、開隆堂は10作品を原寸大で掲載していて、光村の3作品、日文の4作品と比べて多さが際立っています。また、見せ方や触れ方も3社共に様々な工夫が施されています。各社の折込みにも注目すると、日文の美術1の26ページから29ページには「唐獅子図屏風」が、光村の美術1の37ページから40ページには「風神雷神図屏風」、そして、開隆

堂の美術1の28ページから31ページには「樹花鳥獣図屏風」が掲載されています。迫力がある資料で子どもたちの鑑賞への意欲が掻き立てられます。特に、日文では実際に教科書を折ることで、屏風の見え方が本物に近い形で鑑賞できて、子どもたちが知識を実感的に理解できる工夫がされていると思いました。

【浦上教育長】 ありがとうございます。他にご意見いかがでしょうか。

【水野委員】 光村の美術2・3年の、27ページは開くと用紙が小さく、触ってみると和紙みたいな紙でした。やはり、見ることと体験することは違いがあると感じました。最近インターネットで様々なことを見ることはできますが、直接触れることも大切だと思います。そういう意味では、主体的・対話的な学習につながると感じました。

【浦上教育長】 ありがとうございます。水野委員がおっしゃったように、私も少し触りましたが、和紙のようで、日本画や屏風などをイメージ化しやすいと思います。紙の質によって日本画の印象が変わると思います。他にご意見ございませんでしょうか。

【村本教育長職務代理者】 本当に質感が素晴らしく、教科書会社もずいぶん力を入れていると感じました。

【浦上教育長】 ありがとうございます。それぞれの教科書に特徴があり、どれも素晴らしいと思います。子どもが教科書を手にとった時に、子どもの心に入っていき、感性を磨く、人間力を磨くことができる美術を好きになるような、興味関心を植え付けられるような教科書を選択したいと思います。今から採決に入りますが、答申、各委員さんの意見、そして、今ここでの協議を踏まえ、総合的に勘案しまして、光村図書の「美術」が本市の生徒にとって最も適した教科書であると思いますが、この教科書を採択することにご異議ございませんか。

【全委員】 異議なし

【浦上教育長】 全委員ご異議なしと認めます。よって、「美術」の教科用図書につきましては、光村図書出版株式会社の「美術」を採択することが適当と決しました。

【浦上教育長】 それでは、「保健体育」について審議をいたします。選定委員会ではどのような観点でまとめられていましたか。事務局より説明願います。

【黒井課長】 選定委員会の保健体育の検討をまとめとして、

- ・実生活と関連付けた学習ができる内容であること
- ・対話的な学びにつなげやすい工夫があること
- ・発展的な学習が豊富であり、主体的な学びにつながりやすいこと

こういった点での議論をもとに、選定委員会として本市の生徒の実態に適している教科

書として各発行者の特色をまとめ、答申に挙げております。

学習指導要領では、学習指導要領では、保健体育科において、『体育や保健の見方、考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して、心と身体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質能力を育成することを目指す』としています。また、ストレスへの対処、心肺蘇生法などの応急手当の技能の内容やがんについて取り扱うことが示されています。

【浦上教育長】 ただいま事務局から説明がございましたけども、そのことも踏まえて、委員のみなさま方、何かご意見はございませんでしょうか。

【岩井委員】 保健体育科の授業計画を立てるうえで実生活において学びを生かしやすい配列になっていることは、教員にとっても子どもたちにとってもとても大切なことだと思います。

各社教科書の表紙をめくった目次の単元の配列に着目をしますと、大日本、大修館、学研の3社については単元の名前は少し異なるところもありますが、各学年ほぼ同じ流れで進められています。学校現場や生徒の実生活の事を考えますと必要な時に必要な単元の学習をすることが、生徒の学習の理解や知識、日常生活にもつながっていくと考えます。東書はその点に配慮された配列になっていると思います。交通事故の学習を、自転車交通事故が多い学年冒頭に、自然災害の学習を、大雨による自然災害が多発する夏前に、心肺蘇生法の学習を、夏の水泳の学習の時期に、また、熱中症の学習を、気温が上がり始める夏前に、感染症の学習を感染症が本格的に流行する冬前に位置付けられているということは、学びを生かしやすい配列ではないかなと思います。

また、近年、全国で熱中症に関する事故やトラブルが生起していることをふまえますと、保健体育においても熱中症について学び、生徒自らが熱中症の未然防止や対処について知って、実践できるようになることが重要だと考えます。各社、フローチャートを用いて、わかりやすく熱中症の応急手当の方法も示していました。大修館では、暑さに備えた体作り、暑熱順化について紹介して熱中症の未然防止に努められるようになっていました。東書127ページで、熱中症の予防と手当についての記載したうえで、巻末のスキルブック192ページにおいて、熱中症の応急手当について思考ツールを用いて確認できるよう工夫されていました。

【浦上教育長】 ありがとうございます。他にご意見いかがでしょうか。

【水野委員】 同じく取り扱いの内容ですが、本市の学校教育取組事項に「心の健康に関する指導の充実」というのがあります。生徒自身が欲求やストレスに適切に対処できるようになるということは、今の日本にとってすごく大事なことだと思います。各社、心の健康を保つために、リラクゼーションの方法や相談窓口の紹介について掲載があります。その他の特徴として学研ではストレスチェック表があり、東書ではインターネットによるコミュニケーションとトラブルについての掲載があります。大日本ではアンガーマネジメントに関する記事の掲載があります。現在スマホやSNSの普及により子どもたちにかかるス

トレスというのは非常に大きいと思います。心のケアを多く取り上げている教科書が本市には望ましいと考えます。先ほど岩井委員がおっしゃったスキルブックというのは、これは予防的な生徒指導、生徒指導提要のプロアクティブ的な指導につながるという点で、生徒指導にも関連しますので、先ほどのインターネットの話と共に、非常に使いやすいと思います。

それから、各社ともにパラリンピックに関する記事や資料について取り上げ、性の多様性についての記載があり、大日本 38 ページと学研 66 ページ、東書 51 ページ、大修館 42～43 ページで、多様性に配慮した内容になっています。性の多様性というのは、子どもたちにとって身近なテーマであって、正しく理解するという点で、中学生時期のお子さんにとっては非常に重要な学習だと思います。これについては、特に大修館が丁寧に記載していました。また、東書は、紙面と併せて動画で学習できるデジタルコンテンツがあって、非常にていねいに取り扱いをされています。

学び方の工夫という点では、4社とも1時間の主な流れとして課題を見つけるところから、課題を確認して、本文や資料で学習をして課題の解決に取り組んでいくということで、習得した知識・技能を活用してより深く考えられるような学習の流れがあって、課題を合理的に解決して学習活動や授業が展開できるようになっていました。また、どの教科書会社も1單元ごとにその単元のキーワードがあり、それを授業者がチェックできる、学習者もチェックできると思います。

どの教科書会社も單元ごとにまとめを設定して、その時間に学んだことを振り返ることができるように工夫されています。特に学研や東書では、1時間の終わりに学びあいの機会を多く設定しており、主体的・対話的で深い学びにつながると思いました。

【浦上教育長】 ありがとうございます。他にご意見いかがでしょうか。

【村本教育長職務代理者】 他教科等や社会と関連付けながら学ぶことによって、学びが深まったり、つながったりして、実生活に生かしやすいと考えます。

大阪府の選定資料、保健体育の20ページをご覧くださいますと、中段「他教科・他校種との関連」を取り上げている箇所数の記載がありますが、東書が46ヶ所、大日本が27ヶ所、大修館が20ヶ所、学研が28ヶ所と、東書が他の教科書会社に比べて多くなっています。

各社、他教科と関連付けて教科横断的な学習へつなげる工夫はありますが、東書、大日本、大修館は教科内の関連と区別できるようわかりやすく表示しています。東書については二次元コードにアクセスすると関連する教科のコンテンツを見ることができるものもあります。

体育分野では運動に親しむ習慣を身につけるために各社とも運動をするだけでなく、みる、支える、知るとスポーツへの多様な関わり方が紹介され、東書では61ページで生涯にわたるスポーツライフを考える場面が設定されています。大修館の13ページや学研の24ページでみんなが近い条件でゆるく楽しむ「ゆるスポーツ」の紹介やテクノロジーで人間の機能を拡張させ、誰もが超人になれるスポーツを開発して楽しむ「超人スポーツ」が紹介されています。また、学研では23ページに、大日本では126ページにルールや用

具、補助などで障がい者や高齢者、子どもなどにも適合させたアダプテッドスポーツを紹介しています。

また、体力向上の観点で見ると大日本の62ページに体力の向上として、体力の要素や中学校で学ぶ運動と関連して高まる主な体力の要素が紹介されています。大修館では66ページに「体力を高めよう」と題して、体力の要素、体づくり運動の例の紹介や体力向上のための計画を立てられるようになっていきます。東書でも116ページの章末資料において、体力の要素、体力を高める運動例が取り扱われており、体力向上に積極的に取り組むことができるよう配慮されています。

【浦上教育長】 ありがとうございます。他にご意見いかがでしょうか。

【藤井委員】 大阪府教育委員会作成の教科用図書選定資料、保健体育の20ページの「発展的な学習について」を取り上げている数を見ても、東書が25ヶ所、大日本は16か所、大修館も16か所、学研が17か所と東書が他社よりも多くなっています。例えば、東書の80ページの発展を見ると、実際に大きな災害が起きたときに、自分には何ができるのかを主体的に考えて、実生活に生かせるような深い学びのための工夫がされています。

心肺蘇生法やAEDなどについての知識や技能については、非常に重要であると考えます。実際に、救急車が到着するまでに、その場に居合わせた方が適切な処置をしたことにより命が救われた事例等も、よく報道等で取り上げられているのを見ることがあります。心肺蘇生法については各社フローチャートを用いて傷病者の発見から胸骨圧迫や人工呼吸、AEDによる手当をわかりやすく示しています。各社で胸骨圧迫など、それぞれのデジタルコンテンツが用意されていますが、大修館では116ページと117ページで、大日本では107～109ページで2次元コードを読み込むことで直接動画を視聴できるようになっています。また、大日本では106ページから、心肺蘇生法の実習ページが中折りになっており、写真が大きく実習での流れや方法がわかりやすくなっています。東書では、巻末スキルブック内、スキル3・4・5・6で詳しく説明があり、二次元コードから読み込む動画や手順を確認するためのデジタルワーク等を使って学習できるようになっています。

その他に、各教科書会社とも補充的、発展的な学習として二次元コードが用意されていて、インターネットを活用し、自学自習で役立つ資料が取り扱われていました。

【浦上教育長】 ありがとうございます。保健体育という教科では、自分の体、自分の心を如何にして自分で守るかということが大切であり、その点が重点的に書かれていること。そして、性の多様性は子どもにとっても大事であり、心や体をしっかりと成長させるものである。様々な弊害があるかもしれないが、これはこう乗り切ろうよということがしっかりと書かれており、すごく教えやすいと思いました。その点、皆様方、何かご意見ありませんか。

【村本教育長職務代理者】 教育長がおっしゃられましたように、この資料の保健体育の20ページを見ますと、東書が他社より多く取り上げますので、今の時代に向いている

という印象を受けました。

【浦上教育長】 それでは整理が出来たかと思しますので、ただいまから採決に入りたいと思います。保健体育の採択につきましては、答申、それから各委員さん方のご意見、そして今の協議の結果からまとめたいと思います。私の方からそれを総合的に勘案いたしまして、東書の「新編 新しい保健体育」が本市の生徒にとって最も適した教科書であると思いますが、この教科書を採択することにご異議ございませんでしょうか。

【全委員】 異議なし

【浦上教育長】 全委員ご異議なしと認めます。よって、「保健体育」の教科用図書につきましては、株式会社東京書籍の「新編 新しい保健体育」を採択することが適当と決しました。

【浦上教育長】 それでは、「技術」について審議をいたします。選定委員会ではどのような観点でまとめられていましたか。事務局より説明願います。

【黒井学校教育推進課長】 選定委員会の技術の検討をまとめとして、

- ・プログラミング教育がバランスよく学習できる内容になっていること
- ・情報モラルの取扱いが充実していること
- ・探究のプロセスを意識し、自分の考えを構築・表現する力を育めること
- ・基礎的基本的な知識や技能についてわかりやすく記載されていること

こういった点での議論をもとに、選定委員会として本市の生徒の実態に適している教科書として各発行者の特色をまとめ、答申に挙げております。

学習指導要領では、技術において、技術の見方・考え方を働かせ、技術に関する実践的、体験的な活動を通してよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質、能力を育成することが示されています。また、本市の「プログラミング教育」や「情報モラル教育」、「キャリア教育」の推進が重点目標としてあげられています。

【浦上教育長】 ただいま事務局から説明がありましたが、そのことも踏まえて、委員のみなさま方、何かご意見はございませんでしょうか。

【岩井委員】 本市の重点目標であるプログラミング教育については、小学校においても積極的な学習の推進が設定されていて、小学校の学びと中学校の学びを系統的に継続させ、1人1台端末を活用しながら問題解決しようとする力の育成を育んでいく必要があります。そこで、教科用図書選定資料、技術科の技15ページに記載されているプログラミングの取扱いを見ますと、東書では46ページ、教育図書では48ページ、開隆堂では42ページで取り扱われています。内容を見ますと、東書では、巻末の282ページからスクラッチやドリトルの活用例が記載されていて、生徒がすぐに実践できるように効果的に記載されていました。開隆堂では、24ページから、プログラミングについて詳しく取り扱っていま

すが、特に基礎的な知識を身近な製品を例にすることにより、アルゴリズムや、アクティビティ図への理解が深めていけるよう工夫されています。また、巻末資料として270ページから「実習例」として様々なプログラミングによる問題解決ステップが示されています。教育図書では、198ページや別冊「スキルアシスト」30ページから37ページを見ますと、ビジュアル型と日本語入力型の2つのプログラミング言語を扱って、小中高の連携が図れるよう配慮されています。取り扱う内容の差はありますが、3社ともプログラミングに対する本質的な理解を図るための基礎基本や、プログラミングによる問題解決など、バランスをとった内容になっていると思います。

また、開隆堂の284、285ページにはインタビューがありまして、プログラミングの技術に関する進路や職業に関する話題をあげて、学習した技術の内容が、将来の自分の進路とどのように関わりあっていくかについて考える場面を設定していて、非常に良いなと思いました。

【浦上教育長】 ありがとうございます。他にご意見いかがでしょうか。

【藤井委員】 先ほど事務局の説明にもありました、情報モラルの取扱いについては、各社それぞれで配慮されていました。例えば、本市における生徒指導事象の事案の内容で、インターネットやスマートフォンによるトラブルがあります。技術分野では、单元の中で情報モラル・情報リテラシーについて学習する必要があります。3社とも十分な取扱いがあります。最も取扱いページ数の多い開隆堂では、21ページから23ページで、コンピュータやスマートフォンの利用として、具体的な注意点がまとめられていました。また、230ページからの单元の中の取扱いも充実した内容で、例えば、個人認証技術の基礎的な知識の習得を促すとともに、そこに潜む危険性について、双方向の側面から考えられる工夫が見られました。また、東書についても、同様の取扱いが見られ、こうした内容が丁寧に詳しく取り扱われている教科書が本市の生徒には適しているのではないかなと思います。

また、情報モラルとは別の内容になりますが、人権的な視点で見ると、各社とも内容が工夫されていてよいと思いました。例えば東書では56ページや74ページなど、幼児や高齢者、外国人などとの関わりを意識した問題解決例を取り上げたり、障害のある人を支える技術について紹介したりして、多様な他者とも協働する教育に配慮されています。また、開隆堂290ページでは、目の不自由な人が安全に外出を楽しめるデジタル白杖の開発について取り上げ、インクルーシブ社会への考え方に配慮がなされているなど感じました。

【浦上教育長】 ありがとうございます。他にご意見ございませんでしょうか。

【水野委員】 SDGsで、持続可能な社会の構築ということについて考えていくと、どの会社もより良い生活の実現とSDGsの視点を取り上げながら、自ら問題を見だし、課題を設定して解決を図る力を身につけることができるように探究のプロセスを意識した工夫が見られます。

また、各教科書会社とも、学習課題のめあての表示、学習の内容や過程などを振り返ったり、学んだことを生活に生かしたりすることができるように配慮されていると思います。

二次元コードからは、実習の作業を補助する動画や、学習に取り組むためのワークシートなどのデジタルコンテンツが多数設定されており、各社、個別最適、それから協働的な学びに活用することができるようになっていきます。

また、単元のまとめ方について、材料と加工の技術の単元の終わりで比較してみると、教図では、68と69にあるように、やってみようというA編のまとめのように基礎的な知識を確認し、さらに発展的な内容に移行できるようになっています。開隆堂では、102ページ103ページのように、学習した知識を活用して自分の考えを構築し、それを表現する内容が多く見られます。それからインタビューです。その単元に続く未来の仕事をイメージするというようなページへと続いている、まあそういったところにも配慮を感じます。また、東書では、83から85ページのように、未来のテクノロジー、学習のまとめが設定されており、考えたり、説明したりする活動が設定されています。すべての問いが説明する課題になっているということで、少し難しいのではないかと考えました。

自分の考えを表現するという点においては、学習の中で言語活動が充実していることも重要だと思いますが、大阪府の選定資料、技術分野の14ページのところに掲載されている言語活動を促している箇所数として、東書は45ページ、教図46ページ、開隆堂は28ページとなっています。また、考えたり、調べたり、話し合ったりする学習活動を促している箇所を見ると東書は95ページ、教育図書は51ページ、開隆堂78ページとなっており、3社とも言語活動が豊富に扱われていると思いました。

【浦上教育長】 ありがとうございます。他にご意見ございませんでしょうか。

【村本教育長職務代理者】

技術は、木材や金属の加工などの実習があり、実際の作業についてのわかりやすい説明や、安全面への配慮などが特に重要な教科だと思います。

文章については、各社わかりやすい表現で記述されており、実習時における写真やイラストも豊富に使われていました。技術分野の目標を達成するために、3社とも基礎的な技術の仕組みを学べるよう適切な内容の文章記述で構成されています。

開隆堂では、26ページからの1年生で行う単元、材料と加工の取り扱いがていねいで、中学生になって初めての技術分野の実習にも具体的なイメージをもって学習を主体的に進められる工夫が見られます。教図では、別冊スキルアシストを実習のための補助教材として付属しています。

安全面については、特に工具や機械の取り扱いについて配慮が必要です。このような観点で各社を見ると、3社とも、教材に入る前のガイダンス等で、安全に学習を進めるための留意点を記載したページを設けており、作業を行う時の服装や心がけることなど、様々な視点での安全配慮について説明しています。3社とも技術教室のイラストが掲載されていますが、特に開隆堂は、具体的な注意点を吹き出しで示し、作業環境についての配慮についてわかりやすく示していると感じました。屋外での作業中の留意点についても、同じく吹き出しを使って具体的に留意点が示されていてよいと感じました。

製作における技能に関しては、3社とも、二次元コードから各作業工程を動画で視聴できるようにしており、大変わかりやすいと感じました。

東書では 40 ページからのテックラボで製作の基礎技能や工具、機器の安全な使用について、多くの写真資料を提示しながらわかりやすく記載されています。教育図書では、別冊スキルアシストで実習における注意点について、安全マークを示しながらわかりやすく記載していました。また実習中に扱いやすい資料であり、ページを開いたまま作業ができる利点もあります。開隆堂では、76 ページからの製作のための技能というページで、技能について説明していました。単に作業手順の説明だけでなく、学習目標や学習課題が示されており、例えば「けがき」ということはどういう作業で何のために行う作業工程のかなど、詳しい説明があるのが大変よいと思いました。

【浦上教育長】 ありがとうございます。小学校の授業では、図工の代わりに技術があります。中学校に入学した時、技術とは何であるのかということになると思います。そのため、技術への入りやすさが大事だと考えます。技術においては、先ほど村本委員がおっしゃられた安全が一番大事です。その他、目標が大切です。昔の教科書と今の教科書は内容がまったく違います。今の教科書、昔は木材加工、金属加工などが主流でしたが、今はコンピュータを取り入れており、昔とは雲泥の差です。すべての教科書会社から、今の時代に適した内容となっていることが感じ取れますが、やはり子どもにとって技術という科目に馴染みやすく、安全に 1 時間の授業に取り組めるかが大切です。それと「けがき」の話もしていましたが、「けがき」とは一体何なのか。それは、切るための足跡をつけるものであり、金属にもつけられるということをしつかりと教員が伝えられるような教科書でなければならないと思います。その辺りで、皆様ご意見いかがでしょうか。

【水野委員】安全という話がありましたが、子どもたちの中には、耳から情報が入ってくるのがすごく長けている子どもと、視覚的に情報が入ってくる方が長けている子がいます。そういうことを考えると、やはり安全面に対して、イラストと写真を使いながら、それを教師がしっかりと説明していくことで、目と耳から両方入るということであると、安全面に非常にしっかりと具体的な説明があるという開隆堂の教科書が使いやすいのではないかと感じました。

【浦上教育長】 ありがとうございます。他ございませんでしょうか。

【岩井委員】安全ということで、小学校からやっているプログラミング教育について、段差なく問題解決しようとする力を育てていきたいと思っておりますが、その時に、この開隆堂では 21 から 23 ページあたりで、コンピュータやスマートフォンなどを使うときに注意することを体系的に具体的にまとめてありました。こういうところには注意して使っていきたいというような安全にも繋がるって思うので、その点はよく考えられているなと思いました。

【浦上教育長】 ありがとうございます。子どもたちがスマートフォンなどの ICT を使うことによって、オンライン上で誹謗中傷・いじめに繋がったりするケースが多いです。その点も開隆堂には書いてあるので良いと思いました。それらを使いながら、しっかりと子

どもたちに指導するべきだと思います。それでは、答申と、委員さんからのご意見、そして今の協議を総合的に勘案しまして、開隆堂の「技術・家庭 技術分野 テクノロジーに希望をのせて」が、本市の生徒にとって最も適した教科書であると思いますが、この教科書を採択することにご異議ございませんでしょうか。

【全委員】 異議なし

【浦上教育長】 全委員ご異議なしと認めます。よって、「技術」の教科用図書につきましては、開隆堂出版株式会社の「技術・家庭 技術分野 テクノロジーに希望をのせて」を採択することが適当と決しました。

【浦上教育長】 それでは、「家庭」について審議をいたします。選定委員会ではどのような観点でまとめられていましたか。事務局より説明願います。

【黒井学校教育推進課長】 選定委員会の家庭の検討のまとめとしては、

- ・食育についての取扱いが充実していること
- ・日常生活や社会との関連についてていねいに扱われていること
- ・主体的・対話的で深い学びが実現できるよう学習活動が工夫されていること

こういった点での議論をもとに、選定委員会として本市の生徒の実態に適している教科書として各発行者の特色をまとめ、答申に挙げられております。

学習指導要領では、生活の営みに係る見方、考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的、体験的な活動を通して、よりよい生活の実現に向けて生活を工夫し創造する資質、能力を育成することを重視しています。また、「食育の推進」については、本市の重点取り組みとなっております。

【浦上教育長】 ただいま事務局から説明がありましたが、そのことも踏まえて、委員のみなさま方、何かご意見はございませんでしょうか。

【岩井委員】 家庭科については、日常生活との関わりが非常に密接な教科であり、生徒たちが、学んだ内容を自身の生活に結び付けて考えやすく、且つ、将来にわたって直接活用できる教科だと思います。そういう点で、家庭科における食育は非常に重要であると思います。で、食育に関して見てみますと、3社とも多くの写真や挿絵などの資料を効果的にかつ豊富に掲載して、食育について取り扱っています。東書では38、39ページに主な栄養素の可食部100gあたりの含有量を主な食材ごとにグラフで示すなどして、効率よく必要な栄養素を摂取することを理解しやすく掲載しています。開隆堂では128ページから調理実習例の中で調理方法Q&Aを掲載していて、一つひとつの調理過程の持つ意味について、理解しやすい工夫がなされていました。また、102ページでは、食物繊維の重要性が詳しく取り扱われています。教育図書では140ページから147ページに、郷土料理や和食について詳しくふれられていて、和食の特徴や様々な出汁の材料が実物の写真とともに掲載され、郷土の食習慣について、より深く考える時間が設けられています。

また、調理などの安全面についてですが、教育図書では 101 ページにおいて、食中毒についての理解が深まる内容で具体的に記載されていて、衛生と安全が隣りあわせだということが考えられるようになっていきます。開隆堂では 128 ページに記載のように、調理実習例のページには、下の方に衛生マークや安全マークを示して、その時の調理における注意ポイントが、分かりやすく示されています。東書では 64 ページ、65 ページで実習の衛生と安全というのをまとめて記載し、実習前に学習しやすいような構成になっています。図の 2、まな板の汚れの変化というものが、実際の写真を用いていることで、衛生面の配慮の必要性が理解しやすくなっていると思いました。

【浦上教育長】 ありがとうございます。他にご意見いかがでしょうか。

【水野委員】 本市の重点目標のひとつに、地域とともにある学校づくりの推進が挙げられています。その中で児童生徒が地域の中で安心して育つことができるように、地域と連携することが求められています。家庭分野においては、学習指導要領の中の家族・家庭生活で取り扱われている内容ですが、家庭や地域との関わりについては、教育図書の取扱いページ数が 14 ページとなっており、3 社の中で一番多いです。また、単元全体での取扱いでは、開隆堂で一番多く取り扱われており、家族や高齢者、地域や社会の人々との協働、関わり方などが詳しく取り扱われています。さらに、具体的なつながりについて 76 ページに、中学生と地域が協働する取組みが、多数取り扱われており、子どもにとってイメージがしやすいのではないかと思います。

それから、多様性の視点での取扱いを見ると、東書においては、288、289 ページで、みんなが暮らしやすい社会を目指してということで、様々なユニバーサルデザインが 7 原則をもとに示されており、理解しやすい構成となっています。教育図書では、14 ページ 15 ページに、多様な家族の姿がアニメキャラクターなどを例に記載があって、他者理解につながるよう工夫されています。開隆堂においては、30 ページに多様な家族関係として、家庭の中での他者理解について記載されています。また 31 ページには、ヤングケアラーについての取扱いがあり、経験者の声を読むことで理解が深まるよう配慮されており、相談先へリンクできるようになっています。

また、SDGs に関連して、環境教育に関する題材の発展的な学習として、開隆堂においては 308 ページ 309 ページで特設ページを設け、国際的視点からみるプラスチック汚染として、具体的な資料を示し、分かりやすくその重要性を考える資料となっています。また東書では、108、109 ページにサステイナブルクッキングに挑戦しようということで、食材だけではなく、資源を無駄にしない考え方を多面的に考えられるよう工夫されています。また、防災教育について開隆堂では 156 ページ 157 ページに、パッククッキングや加工食品を使った防災食について取り上げて、日常的な備えの重要性についての記述が豊富にありました。

【浦上教育長】 ありがとうございます。他にご意見ございませんでしょうか。

【村本委員】 民法改正により、令和 4 年 4 月より成年年齢が 18 歳に引き下げられ、18

歳になれば保護者の同意なく自らの意思で契約等を結ぶことができるようになりました。子どもたちが成年になったときに消費者として被害を受けることのないよう、消費者教育はとても大切だと思います。

そういった点で、消費者としての権利や責任、消費者トラブルや対策等について、各社ともていねいに取り扱っていました。開隆堂では、消費者の権利と責任について、フローチャートを使って生徒に分かりやすく記載されていました。また中学生の消費者被害について、特にていねいな記載があり、よいと思いました。

今、社会では、現金やクレジットカードやプリペイドカードでの支払いだけではなく、キャッシュレス決済や、タッチ決済など、多種多様な支払方法が普及しています。教育図書においては、235 ページで今後の生活に必要なになっていく二次元コード決済やタッチ決済、また生体認証や埋め込み式マイクロチップを利用する、今後を見据えた内容が写真を使い分かりやすく取り上げられています。開隆堂においては、273 ページでキャッシュレス化について取扱い、今後増えていく無人決済店舗など、多様化する支払い方についても取り扱っています。また、同じページの二次元コードを読み込むことで、クレジットカードについての詳しい動画が視聴できるように配慮されており、わかりやすいと思いました。

【浦上教育長】 ありがとうございます。他にご意見いかがでしょうか。

【藤井委員】 主体的・対話的で深い学びという点で、各社の学習活動の内容を見てみますと、各社とも話し合ってみよう、考えてみよう、やってみようなど実践的、体験的な活用をとおして言語活動を行えるよう工夫されていました。また、3社とも学習の内容や過程などを振り返ったり、学んだことを生活に生かしたりすることができるよう配慮されているかと思います。また、どの教科書もインターネットを活用し、生徒が自学自習で役立つ資料が取り扱われています。東書の4ページ5ページでは、デジタルコンテンツの種類や活用法をまとめてあって、生徒が見通しをもって学習の調整をすることができるように工夫されています。また、開隆堂のデジタルコンテンツの領域ごとの学習のまとめは、基礎的な知識・技能の習得を補充するよう配慮されており、構築した自分の考えを表現する力を確認できる内容となっています。これは、本市の学力課題である基礎的基本的な知識の定着や、自分の考えを表現する力を育成することに正対した活動となっていると思います。

また、家庭科の目標にもある、生活の営みに係る見方・考え方を働かせることや、生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、解決するための工夫に関連して、各社ともに、生活の課題と実践として、生徒が自身の課題から問題を見だし、解決するまでの活動の過程をわかりやすく示しています。東書のデジタルコンテンツには、課題設定が難しい生徒が活用できるように、課題発見チャートというのがあり、工夫を感じます。生徒の学習への興味関心を高める工夫として、東書では単元ごとに生活メモが、開隆堂では単元ごとに豆知識が記載されていて、自分の生活につなげられる工夫がされていると思いました。

【浦上教育長】 ありがとうございます。他にご意見いかがでしょうか。

皆様方のおっしゃった中身でおよそ整理が出来てきていますが、まずは、食育についての取り扱いが充実している、家庭や地域との関わり、消費者教育、これがすごく大事だと思います。消費者教育などの日常生活につながる内容について丁寧に扱われているかどうか、また言語活動を通して主体的対話的で深い学びが実現できるよう、学習活動が工夫されているかどうかを踏まえて、整理をしたいと思います。

それでは家庭につきましては、教育委員会として、ご意見、答申も総合的に勘案しまして、開隆堂の「技術家庭 家庭分野 自立しともに支え合う生活へ」が、本市の生徒にとって最も適した教科書であると思いますが、この教科書を採択することにご異議ございませんか。

【全委員】 異議なし

【浦上教育長】 全委員ご異議なしと認めます。よって、「家庭」の教科用図書については、「開隆堂出版株式会社」の「技術家庭 家庭分野 自立しともに支え合う生活へ」を採択することが適当と決しました。

【浦上教育長】 それでは、英語についての審議をいたします。選定委員会ではどのような観点でまとめられていたましたが、事務局より説明願います。

【黒井学校教育推進課長】 選定委員会の英語の検討のまとめとして、

- ・英語における小中連携の工夫がされていること
- ・生徒の興味関心を高めるようなテーマや資料が扱われていること
- ・コミュニケーション能力の育成に向け、やりとりの活動が充実していること
- ・国際感覚や人権意識を高める内容がバランスよく組み込まれていること

こういった点での議論をもとに、選定委員会として本市の生徒の実態に適している教科書として各発行者の特色をまとめ、答申に挙げられております。

学習指導要領では、目標について、「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり、表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成することをめざす」とされています。

また、英語につきましては、現在全学年にデジタル教科書が提供されておりますが、次年度以降も継続して提供される予定です。文部科学省通知により、「中学校英語の教科書採択については、中学校英語のデジタル教科書を調査し、考慮の一事項とすることができること」とされています。

【浦上教育長】 ただいま事務局から説明がありましたが、そのことも踏まえて、委員のみなさま方、何かご意見はございませんでしょうか。

【岩井委員】 英語については、小学校では外国語科において聞いたり話したりする活動を中心に、英語に親しむことを意識した学習が行われていますが、中学校からは書くこと

や読むことの学習も本格的に始まり、生徒たちが急に難しく感じる現状があります。

現在、小学校では、5・6年生は教科書を、3・4年生では副教材を使用して授業をしております。児童の身近な場面や自分の紹介など、会話が広がるように工夫されていたり、季節に合わせた題材を配置したりするなど、児童の関心を引く内容となっています。イラストや音声教材も工夫されています。そういった小学校の外国語科から中学校への段差をできるだけなくし、スムーズに接続していくことが大切だと思います。

各1年生の教科書を見てみますと、三省堂と東書の教科書は、書き込み用の4線が広く設けられており、書きやすさが配慮されていると思います。書くことに慣れていない生徒たちにとって、英語の文章を書く際の安心感につながると感じました。また、この2社については1学期から2学期の途中までの単元において4線が載っており、4線を意識して書くことを定着できるようになっていました。

また、すべての教科書に、1年生の学習の前に、スターターやレッツスタートなど、小学校の学びをふりかえる教材があります。開隆堂、三省堂、光村、啓林館は、ふりかえりの教材で、小学校で慣れ親しんだ話すこと、やり取りの表現を中心に扱っています。開隆堂は書くことの教材も扱っていて、3技能5領域をしっかりふりかえりをした上で、中学校の学習につなげています。

開隆堂の1年生10ページにはすごろく、三省堂1年9、11ページにはサイコロトークがあります。生徒が新しい仲間づくりの一環として、英語を使いながら、自分のことや相手のことを知っていけるよい活動だなと思いました。ゲーム感覚で楽しみながら、やり取りができる活動であり、且つ、即興性のある活動にもなります。小学校で学んだことを振り返ることにもつながるので、小中連携の要素も入っていてとてもよいと思いました。

また、現在小学校で学ぶ語彙数は、600～700、中学校は1600～1800と示されております。大阪府の選定資料、英語の21ページを見てください。各学年で取り扱っている語彙数を見てみますと、1年生では啓林館が1136で一番多く、三省堂が717で一番少なくなっております。この語彙数に関しては、小学校で慣れ親しんだ単語も含まれているので、一概に多い少ないは言えませんが、小学校では単語のスペルを覚えるということまでは求められていませんので、急にたくさん単語を覚えなければならない状況になると、生徒にとってはちょっと大変なのではないかと思いました。

【浦上教育長】 ありがとうございます。他にご意見はございませんでしょうか。

【村本教育長職務代理者】 ただいまの岩井委員のお話の中で、小学校の教科書で児童の関心を引く内容になっているというお話がありましたが、中学校の教科書においても、生徒の興味関心を高め、生徒が意欲的に学べるように工夫されていることが重要だと思います。

開隆堂の教科書には、多くの写真とともに、様々な国の文化や自然が取り上げられており、生徒の興味関心を高めるのに効果的だと思います。

また、東書では、オンラインツアーを題材とした教材やラーメンを題材とした教材など、生徒の興味を引く内容が豊富で、生徒の実態を反映した内容で学習しやすいのではないかと思います。また、2年生では、留学生に休日プランを提案したり、ご当地グルメを紹

介したりと、自分の住んでいる町のことを英語で紹介する活動があります。ALTとのコミュニケーション活動にも活用でき、とても実用的であると感じました。光村の教科書は、1年生から3年生まで、一つのストーリーとして構成されており、生徒目線のリアルなセリフや展開で教科書が進んでいるので、親しみやすいと感じました。3年生ではヴァーチャルサファリツアーやAIが題材として使用されているなど、全体的に生徒の興味が持ちやすいトピックが多く、学習意欲を引き出しやすいと感じました。

三省堂はそれぞれのレッスンの文章量は比較的多いですが、イラストや写真、図表も多いので、視覚的にも理解することができます。また、デフォルメ化されたイラストもあり、生徒にも親しみやすいと感じました。

【浦上教育長】 ありがとうございます。他の委員さんいかがでしょうか。

【水野委員】 英語は、学んだことを活かして、実際に話したり聞いたり会話したりすることで、身につけていきます。現行の学習指導要領では、話すこと領域がやりとりと発表の二つに分けられて、以前よりも、即興性のあるやりとりができる力の育成について重視された内容になっています。本市においても、子どもたちが英語でやりとりをする場面を中心とした英語活動を推進していると聞いています。実際に、高安小中学校に入らせてもらって実際にその場면을勉強させていただいております。

大阪府の選定資料の英語の20ページですが、三省堂、光村、啓林館は、話すこと（やりとり）の機会が豊富に設けられている点が評価できます。やりとりの量は啓林館、光村、三省堂の順が多いですが、三省堂は、テイクアクションの活動の中で、会話や議論をより深めたり、文法や語彙が自然に学べたりできるような構成になっています。また、各学年に、リアルな場面や状況に応じた内容を学べるがあり、3つの領域である話す、聞く、読むが豊富に組み込まれています。3年生ではプレゼンテーションを多く取り扱っており、準備をしたうえで発表ができるので、比較的取り組みやすいと思います。府の選定資料の英語21ページを見てもわかるように、三省堂は、自分の考えを表現する活動を取り扱っているページ数が3年間で最も多くて、英語での自己表現力を向上させるための工夫がされていると思いました。表現する活動という点では、各社ともペアやグループワークが設定されており、英語で話したり聞いたりする機会も十分に確保されていると感じました。

【浦上教育長】 ありがとうございます。他、ご意見ございませんでしょうか。

【藤井委員】 取り扱われている題材についてですが、どの教科書会社も様々な国の文化を紹介するなど、多文化共生教育についての配慮が見られました。紹介する内容としては、様々な国の学校の授業の様子や食事の文化など、生徒が親しみやすいものが選ばれていると感じました。

啓林館では各学年の最初のページに、教科書で取り上げる国が記載されていますが、他の教科書に比べて、多くの国が取り上げられている印象でした。また、食事や文化なども写真付きで載っていて、国際理解の観点からも理解を深めるのによいと思いました。また、三省堂の3年55ページレッスン5漫画、2年99ページレッスン8落語や教出の2

年 100 ページ、リーディング 2 漫画、2 年 107 ページレッスン 8 落語では、漫画や落語など、世界で人気のある様々な日本文化が取り上げられていて、世界の中からは見た日本を知ることができて面白いと感じました。

また、三省堂 3 年生の 78 ページや、光村 3 年 108 ページでは、キング牧師やローザパークスが題材としてとりあげられていて、人種差別について学ことができる内容になっていました。さらに三省堂の 3 年 72 ページでは、公平とは何かをテーマに英文が掲載されていて、生徒自身が英文を読みながら、テーマについて深く考えることができるようになっています。また、開隆堂では障がい者スポーツ、こちら 3 年生の 43 ページについてですが、それと光村 2 年生の 71 ページ、そして教出の 2 年生の 11 ページには、補助犬や盲導犬が取り上げられていました。また、開隆堂では、マラユスフザイさんのスピーチが取り上げられているなど、どの教科書でも戦争や原爆について触れられていて、学習を通じて平和について考えることができるような内容になっていました。そちらが、三省堂の 3 年生 27 ページ、光村の 3 年生の 29 ページ、啓林館 3 年の 17 ページ、東書 3 年生の 46 ページ、教出 3 年生の 107 ページ、開隆堂 2 年生の 107 ページにあり、英語の教科書ではありますが、様々な部分において人権的な配慮が感じられ、それぞれに工夫されていると思いました。

【浦上教育長】

ありがとうございます。他、ご意見ございませんでしょうか。

【水野委員】先ほど、藤井委員がニュークラウンの What's fairness、公平と言われているので再度確認しましたが、英語の授業の中でも人権教育に触れており、英語で人権教育を考えられるので、非常に良いと思いました。また、ニュークラウンでは、行動経済学の理論も少し扱っている箇所があり、とても考えらえていると感じました。

次に二次元コードについてですが、英語科の 4 技能のうち、特に、聞くこと、話すことに関しては、英語の音声をずっと聞くことは効果的だと思います。二次元コードは、すべての教科書に掲載されており、新出単語や本文などを英語で聞くことができるようになっていました。また、動画を視聴したり、ワークシートをダウンロードしたりすることもできるようになっていて、新しい言語を ICT で学べるようになっていていると思いました。そのため、生徒は家庭で学習することもできると思います。

次に、デジタル教科書に関してですが、啓林館はタブ形式で新しいページが表示され、即時フィードバック機能により、生徒が自分の理解度を即座に確認できるため、効果的な復習や修正が可能になっていました。開隆堂、東京書籍には録音機能がついていて、自身の発音を確認できて良いと思いました。三省堂のデジタル教科書は、視覚的・聴覚的な要素が豊富で、学習者の興味を引きつける作りになっていました。インタラクティブな相互作用的なコンテンツが多く、発音図鑑や AI による発音チェックもあり、リスニングや発音練習に優れた機能を提供することで、生徒の英語力を総合的に向上させてくれることができます。個別学習と協働学習の両方をバランス良くサポートしている点も評価できると感じました。

【浦上教育長】 ありがとうございます。最初に岩井委員が言われたのが、小中の段差をゆるやかにするというので、4線の話がされたと思います。小学校では特に英会話が中心になっていて、中学校では本格的に書くということが重要になってくるため、苦手意識が出てくるので、その段差、階段をできるだけ低くしてあげる工夫、配慮がある教科書が、東書や三省堂かと思います。それから、本市の英語の課題ですが、短い説明の要点を捉えることができない、要点整理ができないという大きな課題があります。それを如何にして自分の考えをまとめて表現するかが大切だと思います。その中で、三省堂の教科書が良いかと思います。それらを整理し、答申、皆さん方のご意見、そして私の思い、それから、子どもたちの英語に係る興味関心といった部分をトータルして判断して、採決を取りたいなと思います。

それでは、本市の生徒の状況等も含めて、総合的に勘案いたしますと、三省堂の「NEW CROWN English Series」が本市の生徒にとって最も適した教科書であると思いますが、この教科書を採択することにご異議ございませんか。

【全委員】 異議なし

【浦上教育長】 全委員ご異議なしと認めます。よって、「英語」の教科用図書につきましては、株式会社三省堂の「NEW CROWN English Series」を採択することが適当と決しました。

【浦上教育長】 それでは、「道徳」について審議をいたします。選定委員会ではどのような観点でまとめられていましたか。事務局より説明願います。

【黒井学校教育推進課長】 選定委員会の道徳の検討のまとめとしては、

- ・「いじめ」や「生命尊重」など、人権的な諸課題について丁寧に扱われていること
- ・情報モラルについて丁寧に取り扱われていること
- ・問題解決的な学習や体験的な学習を通して主体的に学習活動ができるよう工夫されていること

こういった点での議論をもとに、選定委員会として本市の児童の実態に適している教科書として各発行者の特色をまとめ、答申に挙げられております。

学習指導要領においては、道徳科の目標として、「多面的・多角的に考えること」「人間としての生き方についての考えを深めること」などが記載されております。内容に関しては「情報モラルに関する指導を充実すること」や「現代的な課題の取扱いにも留意すること」などが記載されております。

八尾市教育振興基本計画においては、豊かな心の育成のための施策の方向性として、特別の教科 道徳を要として心の教育の充実を図り、子どもたちの自己肯定感・自己有用感を高める教育を推進すること、命を育む教育を推進することなどが挙げられております。

【浦上教育長】 ただいま事務局から説明がありましたが、そのことも踏まえて、委員のみなさま方、何かご意見はございませんでしょうか。

【藤井委員】 先ほど選定委員会の検討のまとめでもありましたように、道徳科の授業においていじめ問題について全員でしっかり考えることは、とても大切だと思います。各社ともいじめに関する教材については、子どもたちの身近な場面を取り上げた内容を扱っていて、教材を通して疑似体験的に考えることができるようになっていました。未然防止の観点からも、こういった教材を使って考えたり、クラスで意見を交流したりすることは重要だと思います。

東書、教出、光村、日文、あかつきの5社においては、いじめ問題について、複数の教材からなるユニットの形式で取り扱っていました。

内容について見比べてみたところ、日文は特にいじめ問題についての取扱いが丁寧だと感じました。扉ページには、教材名と併せて、いじめと向き合うというテーマで各学年に応じたメッセージが書かれています。そして、直接的な教材、間接的な教材、視野をひろげるためのコラムなどがセットで配置されています。いじめ教材の配置時期にも工夫が見られ、いじめ防止に対してとりわけ意識が高いことが伺えました。

東書がいじめに関する教材を見てみますと、直接的にいじめを扱う教材を各学年に3つ用意しており、その3つをユニットとして扱っていました。内容としては、比較的短い文章や漫画形式で読みやすくした教材をもとに、問いに対して自分の考えを整理したり、グループで話し合っただけで考えを深めたりすることに時間を使えるようなつくりになっていました。傍観者を単元として扱った教材もあり、本市で実施している傍観者教育と関連付けて学びを深めることができると思います。いじめ問題を自分事としてしっかりと考えさせたいという意図を感じました。

教材の内容については、光村の2年生の教科書39ページに、本市でも取り組んでいる「ピンクシャツデー」を取り扱った教材が掲載されていました。昨年度は2月の最終水曜日である2月28日を「ピンクシャツデー」とし、市職員もピンク色のものを身に付けていじめ反対の意思表示をしていたかと思います。本市の取組みと関連付けて学習できるので、良いのではないかなと思いました。

また、併せて生命尊重を取り扱った教材について見てみますと、生命の尊さの教材数について、大阪府の選定資料、道徳の14ページ、15ページの教科書会社ごとの題材数によると、東書・光村・日文・学研・あかつきでは3年間で9つ、そして教出は7つの教材を扱っています。一方、日科は、5つとなっており、生命の尊さに関する取扱いが他と比較して少なくなっています。

特に東書は、「いのちを考える」という扉ページをつけ、3つの教材とコラムを組み合わせたユニット形式で生命の尊さについて扱っていました。生命の尊さについての理解を深めることは、自他を尊重する心を育むために非常に大切なことであると考えますので、しっかりと取り扱われていてよいと思いました。

【浦上教育長】 ありがとうございます。他にご意見いかがでしょうか。

【岩井委員】 人権尊重という点では、各社とも工夫して取り扱っているなと思います。光村では、全学年において、人権について深く考えるためのユニット教材が用意されている

て、取扱いが丁寧だなと感じました。例えば2年生の117ページをご覧ください。「共に生きるために大切なことは。」という扉ページがあって、複数の教材とコラムを通じて人権について考えるつくりになっています。

また、本市は外国にルーツを持つ生徒もたくさん在籍しており、年度途中の直接編入等も多いと聞いています。そのような実態を踏まえると、多文化共生や国際理解等について考えを深められる教材が扱われていることも重要だと思います。

各社の教材を見ていきますと、どの教科書会社でも国際理解に関する教材がありますが、日文、学研、光村、東書では、クラスに海外からの転校生が来たことを取り扱ったものや、日本に住んでいる外国人に対する偏見を取り扱ったものなど、本市の生徒が日常生活の中で出会うような場面が取り上げられていました。

また、令和5年6月に閣議決定された第4期教育振興基本計画においては、大きなコンセプトの一つとして「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」が挙げられていたかと思います。人とのつながりを大切にする中で、自己肯定感や自己有用感を高め、よりよく生きることについて考えることができるようになるために、道徳科の授業を通して学べることも多いと思います。

ウェルビーイングについては日科で大きく取り上げられていました。巻末に「ウェルビーイングカード」というツールがついていて、これを使った学習を推奨しているところが特徴的でした。また、ウェルビーイングの向上に関連して、個性の伸長の内容項目の教材について注目してみると、自分の可能性を信じ、努力を続けて成功した著名人のエピソードや、自分の思いを貫いて自分らしく生きることのよさなどを、具体的なエピソードとともに紹介している教材が多くありました。東書では、1年生の150ページに、「自分の性格が大嫌い！」という教材があります。作者が、自分の怒りっぽい性格を例にしながら長所と短所が表裏一体であることについて書いた教材になっているのですが、中学生が考えていそうなことを予測しながら読みやすい文体で書かれていて、説得力がある文章になっていました。思春期の時期には、自分と人を比べて自信を無くしたり、自分の短所にばかり気をとられて悩んだりすることもあるかと思いますが、この教材を通して、少し違った視点から自分を見つめ直すのではないかなと思いました。

【浦上教育長】 ありがとうございます。他にご意見いかがでしょうか。

【水野委員】 近年、本市でもインターネット等による子どもたちのトラブルが増えていますので、情報モラルに関連する教材の取扱いというのも非常に重要だと思います。各社とも情報モラルについては、実際のSNSでの会話の画像等のイラストや漫画を用いて、生徒たちにわかりやすく工夫されていると思います。また、どの教科書でも子どもたちの身近に起こりそうな事例を取り上げて、子どもたちが自分事として考えられそうだと思います。

日文とあかつきは情報に関する教材やコラムが豊富だと感じました。特に、日文ではどの学年にもマナーやルールに関する教材や、いじめと関連付けた教材があって、丁寧に取り上げられていました。SNS上のトラブルからいじめに発展することも多いと聞きますので、いじめに関連付けた教材が全学年にあるのは良いと思いました。

また、東書の2年生の57ページですが、フィルターバブル現象とエコーチェンバー現象を取り扱っています。インターネットでは、利用者の傾向に合わせた情報を多く表示する機能があり、それは一方では自分の興味関心の非常に重要な情報が検索できるという長所はありますが、もう一方では、それが一部から物事をみるという考え方の形成に寄与してしまうということです。それが、やはり誤った認識で、不確かな情報を信じてしまうことによるトラブルに発展するという危険性があるので、そういうことをあまり知らないで子どもたちが使っていると、皆がやっている事だから大丈夫ということや、こういうことは普通だと思ってしまうということになります。そういった意味では、こういう単語を知っているということは生徒指導上でも、普段の生活、学校生活でも道徳教育を推進していくという意味で非常にいいと思いました。

全体的に、情報モラルを守らなかったことによる失敗やSNSの危険性については、どの教科書でも取り扱いが多かったです。学研とあかつきは、災害時にSNSを上手に活用することによって命が救われ、支援物資の調達に役に立ったというエピソードのコラムがあり、SNSを何か悪いものだと決めつけるのではなく、上手にテクノロジーを活用するという利点にも触れられていたのが、良い点だと思いました。

【浦上教育長】 ありがとうございます。他にご意見いかがでしょうか。

【村本教育長職務代理者】 別の視点でよろしいでしょうか。道徳科については、学習指導要領において、問題解決的な学習や体験的な学習などの学び方の工夫についても示されていたかと思います。各社とも、そういった学習ができるよう、紙面が工夫されていました。

日文では、各学年に学びを深めようというページがあり、問題解決的な学習や体験的な学習などの流れと参考となる資料が示されていて、学び方の工夫について充実していると感じました。1時間の授業で完結できるくらいの分量で活動が設定されており、活用しやすいのではないかと感じました。

東書では、プラスという、教材と関連したコラムがあります。目次をみると、教材の後にプラスというページが続いている箇所が多いのがわかります。内容としては、読んで学ぶもの、体験的な学習を促すもの、対話を促すもの、自分の考えを書きこむものなど、様々な種類があります。考えを書きこむページなどは結構量が多いように感じましたが、授業の導入や終末、朝学、家庭学習等、様々なタイミングで手軽に活用できるような内容になっていましたので、使いやすいものを様々な場面で上手に活用すればよいのではないかと感じました。

光村の問題解決的な学習や体験的な学習を促すページについては、教材と一緒に1時間で無理なく取り組める分量で作られていました。また、しっかりと深めたいテーマについてはまなびをプラスという扱いで、連続する別の1時間で話し合いを中心とした学習ができるよう考えられています。話し合いの手順がていねいに示されており、教師にも生徒にもわかりやすく考えられていると感じました。

また、主体的に学ぶためのツールとしては、各社のデジタルコンテンツについてもそれぞれ工夫されていました。内容としては、それぞれ朗読の音声や関連する資料、画像や動画などがありました。

東書はデジタルコンテンツの種類が特に豊富で動画資料も多く、工夫されていると思いました。東書では、二次元コードからどのようなコンテンツにつながるのかがわかるように、イラストで示されています。防災をテーマとした教材では、実際の浸水被害の様子等をVR映像によって体感できるようになっており、これは他にはない特色あるコンテンツでした。また、考えを整理するツールとして、デジタル心情円がありました。心情円については、デジタルツールとは別に、教科書の最後のページに紙媒体のものも付録としてついています。また、二次元コードから関連する他教科の資料ページを参照できるようになっているのが特徴的で、他教科とのつながりについて意識できてよいと感じました。

【浦上教育長】 ありがとうございます。先ほど岩井委員がおっしゃった東書の、「自分の性格が大嫌い！」について、やはり今の子どもたちは課題を多く抱えています。学校不登校の問題、自分に全然自信がない、自己有用感がないなど、全国学力・学習状況調査においても、その傾向が表れています。先日、大阪府が中間発表をしており、少しは改善されていると言っていました。本当に子どもたちが自信をもって毎日生きていかなければならないわけですが、子どもの様々な環境や事情により、必ずしもそうではないことがあります。そのため、自分自身をしっかりと見つめ直す、いわゆる非認知能力が大切です。これを如何にして子どもたちに培わせるか、この取り組みは家庭でも必要ですし、学校や地域でも取り組む必要があります。その辺を取り入れる必要があると考えます。

もう一つ、藤井委員がおっしゃった脱傍観者教育についてです。いじめについては、すべての教科書に大事なことが書かれています。自分が実施にいじめを見かけたとき、どうするのか、自分自身が嫌な時にどうやってSOS出すのか、その辺りをしっかりとこの道徳の中で、先生が教えなければなりません。それは、ものすごく大事です。今の子どもたちを見ると、そこが課題となっており、この道徳の教科書は本当に貴重なものだと思います。皆様に教科書をしっかりと読んでいただき、ご意見いただきまして、ある程度整理できましたので、今から採決に移りたいと思います。それでは、答申を踏まえ、そして皆様方のご意見、そして、話し合いもしましたので、そういうことも含めて総合的に勘案いたしまして、東京書籍の「新編 新しい道徳」が本市の生徒にとって最も適した教科書であると思いますが、この教科書を採択することにご異議ございませんか。

【全委員】 異議なし

【浦上教育長】 全委員ご異議なしと認めます。よって、「道徳」の教科用図書につきましては、東京書籍株式会社の「新編 新しい道徳」を採択することが適当と決しました。

【浦上教育長】 よって、議案第26号「令和7年度使用 八尾市立中学校教科用図書の採択に関する件」については、以上のとおりと決しました。

【浦上教育長】 続きまして議案第27号「令和7年度使用 八尾市立小学校教科用図書の採択に関する件」について審議いたします。提案理由を黒井学校教育推進課長より説明願

います。

【黒井学校教育推進課長】 それでは、議案第 27 号「令和 7 年度使用八尾市立小学校教科用図書の採択に関する件」についてご説明いたします。

本件については、教育長に対する事務委任等に関する規則第 2 条第 9 号の規定により、次のとおり委員会の議決を求めるものです。

提案の理由といたしましては、令和 7 年度使用八尾市立小学校教科用図書を採択するにつき、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第 14 条に基づき、本案を提出する次第です。

以上、甚だ簡単な説明ではございますが、よろしくご審議賜りますようお願い申し上げます。

【浦上教育長】 ただいま、提案理由の説明がございましたが、小学校用教科書の採択について令和 7 年度においては、無償措置法第 14 条の規定に基づき、昨年度と同一の教科書を採択しなければならないということによろしいですね。

【黒井学校教育推進課長】 おっしゃるとおりです。

【浦上教育長】 現在使用されている教科書について、現場の先生方から何か不備な点など、聞いていることはありませんか。

【黒井学校教育推進課長】 使用に際しての不備な点はなく、教員の研究、また授業の学びも進められているという報告を受けております。

【浦上教育長】 分かりました。ただいま説明がありましたように、現在使用されている教科書について、不備な点もないようでございます。委員の皆様方、何かご質疑ございませんでしょうか。

ないようですので採決に移らせていただきます。議案第 27 号について原案を適当と認めることにご異議ございませんか。

【全委員】 異議なし

【浦上教育長】 全委員異議なしと認めます。よって、議案第 27 号「令和 7 年度使用 八尾市立小学校教科用図書の採択に関する件」について原案を適当と認めることに決しました。

ここで議事の都合により、暫時休憩をさせていただきます。再開は 10 分後とさせていただきます。

(暫時休憩)

【浦上教育長】 では、再開いたします。次に、議案第 28 号「視覚に障がいのある児童・生徒に対する「拡大教科書」の採択に関する件」について審議いたします。提案理由を黒井学校教育推進課長より説明願います。

【黒井学校教育推進課長】 それでは、議案第 27 号「視覚に障がいのある児童・生徒に対する「拡大教科書」の採択に関する件」について、ご説明いたします。

本件については、教育長に対する事務委任等に関する規則第 2 条第 9 号の規定により、次のとおり委員会の議決を求めるものです。

提案の理由といたしましては、市内小中学校に在籍する児童・生徒が拡大教科書を必要とすることから、学校教育法附則第 9 条に規定する教科用図書として承認いただきたく、本案を提出する次第です。

以上、甚だ簡単な説明ではありますが、よろしくご審議賜りますようお願い申し上げます。

【浦上教育長】 ただいま提案理由の説明がございましたが、委員のみなさま方、何かご質疑ございませんでしょうか。

【岩井委員】 来年度、拡大教科書を使用する予定の児童・生徒はいますか。

【黒井学校医教育推進課長】 現時点においてということではございますが、小学校で 1 名の使用を予定しております。

【浦上教育長】 他にご質疑ございませんか。ないようですので採決に移らせていただきます。議案第 28 号につき原案を適当と認めることにご異議ございませんか。

【全委員】 異議なし

【浦上教育長】 全委員異議なしと認めます。よって、議案第 28 号「視覚に障がいのある児童・生徒に対する「拡大教科書」の採択に関する件」について原案を適当と認めることに決しました。

【浦上教育長】 本日は、小学校、中学校、拡大教科書の採択を行いました。それぞれの教科書が、児童・生徒の学習に効果的に使用されますようお願いをしておきます。

以上で、本日の予定案件については終わりますが、この際、委員のみなさま方から何かご発言はございませんでしょうか。よろしいですか。長時間にわたり、本当にありがとうございました。

それでは、以上をもちまして 8 月臨時教育委員会を終了いたします。